

教育に関する事務の管理及び執行状況の
点検・評価報告書
【令和4年度実施事業】

令和5年9月
長浜市教育委員会

< 目 次 >

1 点検・評価制度の概要について	
(1) 趣旨	……………3
(2) 点検・評価の対象	
(3) 実施方法	
(4) 実施スケジュール	
(5) 長浜市教育委員会事務評価委員会 委員名簿	
2 教育委員会の活動概要について	……………4
3 点検・評価の結果について	
(1) 評価基準	……………7
(2) 評価結果の概要	
(3) 事業別評価結果	
<基本目標1>	
乳幼児期における就学前教育を充実します	……………13
<基本目標2>	
子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します	……………19
<基本目標3>	
学校・家庭・地域のつながりを深め、地域全体の教育力の向上をめざします	……………34
<基本目標4>	
地域の伝統・文化を生かし、郷土を愛する心を育てます	……………42
<基本目標5>	
いつでも、どこでも、だれでも学びあえる生涯学習環境の充実を図ります	……………45
<基本目標6>	
安全・安心で質の高い教育を支える環境を整備します	……………55
4 第3期長浜市教育振興基本計画	……………60
資 料	……………61

---参考法令等---

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律 抜粋(一部省略)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

○第3期長浜市教育振興基本計画 一部抜粋

第1章

5.計画の進捗管理

本計画を効果的かつ確実に推進していくため、本計画に掲げる内容に基づき実施する具体的な施策について、年度ごとに整理し、関係機関で情報共有します。

また、本計画の進捗状況について、PDCAサイクルの考え方に基づき、毎年度点検・評価を実施することで、成果や課題を検証しながら、着実に各種施策に取り組みます。

なお、本計画の着実な推進にあたって、目標とする客観的な指標(進捗管理目標)を設定します。実施した取組の成果はこの指標だけでは表せない実態があるため、当指標以外の様々な実態を確認し検証を行います。

1 点検・評価制度の概要について

(1) 趣旨

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号・以下「法」という。)第26条の規定及び第3期長浜市教育振興基本計画第1章に掲げるとおり、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価(以下、「点検・評価」という。)を実施する。

(2) 点検・評価の対象

令和4年度長浜市教育振興基本計画実施プラン(以下「実施プラン」という。)に掲げる事業を対象とする。

		内部評価	外部評価
教育委員会の権限に属する事業	指標(進捗管理目標)対象事業(55件)	●	●
	その他事業(15件)	●	●
市長部局の権限に属する事業	指標(進捗管理目標)対象事業(15件)	●	—
	その他事業(5件)	●	—

(3) 実施方法

- 一 令和4年度実施プランに掲げる事業の数値目標等に対する実績等を明らかにし、自己点検・評価を行う。(内部評価)
- 二 上記事業のうち、教育委員会の権限に属する事業について、法第26条に基づき長浜市教育委員会事務評価委員会を開催し、学識経験者の意見・助言を求める。(外部評価)
- 三 点検・評価の結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表する。
- 四 報告書は、PDCAサイクルに基づいた取組により、次年度以降の目標設定や事業立案に活用する。

(4) 実施スケジュール

令和4年度	
4月	令和4年度実施プランの公表
4月～3月	各事業の執行
令和5年度	
5月～7月	自己点検・評価の実施(内部評価)
7月18日・19日	事務評価委員会開催(外部評価)
8月24日	教育委員会8月定例会で審議
9月	市議会へ報告書を提出、公表

(5) 長浜市教育委員会事務評価委員会 委員名簿

	氏名	備考
委員長	大橋 松行	滋賀県立大学名誉教授
副委員長	大橋 英子	滋賀文教短期大学教授
	野村 幸弘	学校運営協議会委員
	森川 裕子	家庭教育支援チーム「えがお」代表
	桐畑 裕子	合同会社LOCO 副代表

※役職は就任時のもの。任期は2年

2 教育委員会の活動概要について

1 教育長・委員

教育長	織田 恭淳
教育長職務代理者	前田 康一
委員	廣田 光前
委員	宮本 麻里
委員	中村 亜紀
委員	松宮 誠也

2 教育委員会 会議の状況

(1) 定例会及び臨時会の開催状況

定例会	12回
臨時会	1回

(2) 審議及び協議・報告件数

議案審議	32件
協議・報告	21件

(3) 傍聴者 延べ1人

(4) 委員協議会の開催状況及び協議件数 11回 27件

3 主な活動状況

(1) 教育委員会の会議、研修会等への出席

- ・長浜市総合教育会議 2回
- ・教育委員研修など

(2) 式典等への出席

- ・卒業式(小学校、中学校、義務教育学校)

(3) 学校、教育関係機関の訪問等

- ・学校訪問(小学校、中学校、義務教育学校)
- ・園訪問(幼稚園・保育所・認定こども園)
- ・給食試食会(小学校)

<定例会及び臨時会審議案件等一覧>

4月定例会	議案審議	議案第19号 臨時代理の承認について 議案第20号 学校運営協議会委員の任命について 議案第21号 長浜市社会教育委員の委嘱について 議案第22号 長浜市図書館協議会委員の委嘱又は任命について
5月定例会	議案審議	議案第23号 議会の議決を経るべき教育関係議案に関する意見について 議案第24号 学校運営協議会委員の任命について
6月定例会	協議・報告	(1) 令和4年度教育委員会事務評価委員会委員の委嘱について
7月定例会	議案審議	議案第25号 臨時代理の承認について 議案第26号 長浜市ALT(外国人指導助手)民間派遣業務プロポーザル選定委員会設置要綱の制定について
	協議・報告	(1) 長浜市民間認可保育所及び認定こども園副食費補助金(新型コロナウイルス対策事業分)交付要綱の制定について (2) 一麦保育園移管先法人の募集について (3) 令和4年長浜市議会6月定例会一般質問答弁要旨について
8月定例会	議案審議	議案第27号 臨時代理の承認について 議案第28号 長浜市立学校事務共同実施組織運営要綱の制定について 議案第29号 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書について 議案第30号 議会の議決を経るべき教育関係議案に関する意見について
	協議・報告	(1) 長浜市学校給食費の徴収に関する規則の一部改正について (2) 長浜市病児保育施設整備費等補助金交付要綱の一部改正について (3) 長浜市民間認可保育所及び認定こども園運営補助金交付要綱の一部改正について (4) 令和5年度幼稚園、保育所及び認定こども園の入園入所申込受付について
9月定例会	議案審議	議案第31号 長浜市教育委員会における特殊の考慮を要する会計年度任用職員の給与に関する規則の一部改正について
	協議・報告	(1) 一麦保育園民営化事業プロポーザル選定委員会設置要綱の制定について (2) 令和4年長浜市議会9月定例会月議会一般質問答弁要旨について
10月定例会	議案審議	議案第32号 学齢児童生徒の就学すべき学校の区域を変更することについて
11月定例会	議案審議	議案第33号 議会の議決を経るべき教育関係議案に関する意見について
12月定例会	議案審議	議案第34号 長浜市通園バス利用要綱の一部改正について
	協議・報告	(1) 長浜市認定こども園一時預かりサービス事業実施要綱の一部改正について (2) 一麦保育園民営化に係る移管先法人の決定について (3) 令和4年長浜市議会12月定例会月議会一般質問答弁要旨について
1月定例会	議案審議	議案第1号 長浜市特別支援教育支援委員会規則の一部改正について 議案第2号 長浜市就学前特別支援検討委員会規則の一部改正について
2月定例会	議案審議	議案第3号 議会の議決を経るべき教育関係議案に関する意見について
2月臨時会	議案審議	議案第4号 長浜市立小学校、中学校及び義務教育学校の校長及び教頭の任免の内申について
3月定例会	議案審議	議案第5号 令和5年度長浜市教育行政方針の策定について 議案第6号 長浜市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 議案第7号 長浜市教育委員会の権限に属する事務の委任及び補助執行に関する規則の一部改正について 議案第8号 教育委員会の所管に係る個人情報の保護に関する法律等施行規則の制定について

		議案第9号 長浜市立学校等における通話録音装置の設置及び運用に関する要綱の一部改正について 議案第10号 長浜市立幼稚園の管理運営に関する規則の一部改正について 議案第11号 長浜市通園バス利用要綱の一部改正について 議案第12号 長浜市部活動の地域移行推進協議会設置要綱の制定について 議案第13号 長浜市就学援助費及び入学前応援金給付要綱の一部改正について 議案第14号 長浜市特別支援教育就学奨励費給付要綱の一部改正について 議案第15号 長浜市教育委員会事務処理規程の一部改正について 議案第16号 教育委員会の所属職員の任免について
	協議・報告	(1) 長浜市立認定こども園の管理運営に関する規則等の一部改正について (2) 長浜市認定こども園一時預かりサービス事業実施要綱等の一部改正について (3) 長浜市保育所規則の一部改正について (4) 長浜市立保育所等延長保育事業実施要綱の一部改正について (5) 長浜市民間認可保育所及び認定こども園運営補助金交付要綱の一部改正について (6) 長浜市保育士等宿舍居住支援事業補助金交付要綱の一部改正について (7) 長浜市次世代育成支援対策施設整備費補助金交付要綱の一部改正について (8) 令和4年長浜市議会3月定例会月議会代表質問及び一般質問答弁要旨について

<委員協議会協議案件等一覧>

4月	協議・報告	(1)令和4年長浜市議会6月定例会提出案件について
6月	協議・報告	(1)小学校区変更要望書に対する対応について (2)学力向上について
7月	協議・報告	(1)令和4年長浜市議会9月定例会月議会提出案件について (2)長浜市共同学校事務室の設置について (3)学力向上について
8月	協議・報告	(1)長浜市生涯学習社会づくり基本方針 改定骨子案について (2)学齢児童生徒の就学すべき学校の区域を変更することについて (3)1学期の生徒指導の現状について (4)学力向上について
9月	協議・報告	(1)学力向上について (2)令和4年度全国学力・学習状況調査の概要説明について
10月	協議・報告	(1)令和4年長浜市議会12月定例会月議会提出案件について (2)学力向上について (3)全国学力・学習状況調査のC B T化への対応(学習eポータル導入)について
11月	協議・報告	(1)長浜市学校教育情報化推進計画の策定について(着手) (2)令和5年度当初予算重点事項について
12月	協議・報告	(1)長浜市生涯学習社会づくり基本方針のパブリックコメントの実施について (2)2学期の生徒指導の現状について
1月	協議・報告	(1)令和4年長浜市議会3月定例会月議会提出案件について (2)長浜市の学校再編(適正規模・適正配置、小中一貫教育の推進)について (3)AI型ドリルソフト「Qubena」の活用状況について (4)長浜市学校給食の状況について
2月	協議・報告	(1)「長浜市子ども読書活動推進計画」(第4次)の策定について(着手) (2)「長浜市生涯学習社会づくり基本方針」の改定について
3月	協議・報告	(1)「長浜市部活動の地域移行推進計画」の策定について(着手) (2)3学期の生徒指導の現状について

3 点検・評価の結果について

(1) 評価基準

1. 指標(進捗管理目標)対象事業 ※指標(進捗管理目標)がある施策

評価	内容
A	目標達成率90%以上～100%超
B	目標達成率70%以上～90%未満
C	目標達成率50%以上～70%未満
D	目標達成率50%未満

2. その他事業 ※指標(進捗管理目標)がない施策

評価	内容
達成	具体的な施策を通して、基本目標が達成できた
未達成	具体的な施策を通して、基本目標が達成できなかった

《自己評価の概要》

(1)指標(進捗管理目標)対象事業

施策の基本的方向			【基本目標1】 1.生きる力の基礎を培う就学前教育の充実						
連番	No.	基本的方向	指標(進捗管理目標)	担当課	計画策定時	目標(R7)	目標(R4)	実績(R4)	事業の評価
1	★1	1	園の教育課程及び指導計画に、特色ある保育内容を取り入れている割合	幼児課	50.0%	100.0%	60.0%	55.0%	A
2	★2		「幼児期の終わりにまでに育ってほしい姿」を実感した割合(保護者アンケート)	幼児課	—	70.0%	60.0%	91.2%	A
3	★3		特別支援教育士資格の取得者数	幼児課	1人	5人	取得者1人 ※受講者4人	取得者1人 ※受講者4人	A
4	★4		家庭において、乳幼児に週2日以上読み聞かせを実施している割合	幼児課	—	90.0%	70.0%	61.0%	B
5	★5		アプローチ・スタートカリキュラムをテーマにした園小連携及び研究会の実施校区の数	幼児課	1小学校区 (25小学校区中)	全小学校区	4小学校区	4小学校区	A

施策の基本的方向			【基本目標2】 2.一人ひとりを大切にする教育の推進						
連番	No.	基本的方向	指標(進捗管理目標)	担当課	計画策定時	目標(R7)	目標(R4)	実績(R4)	事業の評価
6	★7-1	1	いじめと認知され、対応することができた件数 ※「いじめを見逃さない」という考えから、積極的に認知します。	教育指導課	小学校192件	前年比増	小学校200件	小学校156件	B
7	★7-2			中学校 75件	前年比増	中学校100件	中学校 60件	C	
8	★7-3		いじめの解消率	教育指導課	小学校78.0%	小中学校ともに 100.0%	小中学校ともに 100.0%	小学校72.4%	B
9	★7-4			中学校84.0%	中学校65.0%			C	
10	★8-1	2	通常学級に在籍している児童生徒のうち、支援が必要と考えられる者で、「個別の指導計画」が学校で作成されている割合	教育指導課	93.0%	100.0%	94.0%	100.0%	A
11	★8-2	特別支援学級に在籍児童生徒及び通級による指導を受ける児童生徒の「個別的教育支援計画」を作成する割合	教育指導課	—	100.0%	100.0%	100.0%	A	
12	★8-3	特別支援学校教諭免許状の取得者数	教育指導課	69人	前年比増	85人	92人	A	
13	★9	多様な学びの場を求める子どもが学校以外の場で学ぶことにより出席認定された数	教育センター	13人	前年比増	30人	31人	A	

施策の基本的方向			【基本目標2】 3.確かな学力の育成						
連番	No.	基本的方向	指標(進捗管理目標)	担当課	計画策定時	目標(R7)	目標(R4)	実績(R4)	事業の評価
14	★11-1	3	全国学力学習状況調査・国語の正答率と本市正答率との比較(全国学力・学習状況調査)	教育指導課	小 -2.8%	前年度比 +0.5%	小 -1.3%	小 -5.6%	D
15	★11-2				中 -2.8%		中 -1.3%	中 -1.0%	A
16	★11-3		全国学力学習状況調査・算数(数学)の正答率と本市正答率との比較(全国学力・学習状況調査)	教育指導課	小 -1.6%	前年度比 +0.5%	小 -0.8%	小 -4.2%	D
17	★11-4				中 -0.8%		中 -0.3%	中 +0.6%	A
18	★13	CEFR(セファール)A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる中学3年生生徒の割合	教育指導課	38.5%	50.0%	41.0%	45.9%	A	
19	★15	授業にICTを活用して「資料・意見等の提示」、「学習用ソフトウェアを活用した協働的な学習」ができると答えた教員の割合(学校における教育の情報化の実態等に関する調査)	教育改革推進室	53.7%	100.0%	75.0%	79.9%	A	

施策の基本的方向			【基本目標2】 4.豊かな心の育成						
連番	No.	基本的方向	指標(進捗管理目標)	担当課	計画策定時	目標(R7)	目標(R4)	実績(R4)	事業の評価
20	★16	4	「職場体験で自分の良さや適性等を発見したり、確認したりできた」と答えた割合(中学生チャレンジウィーク事後アンケート)	教育指導課	89.0%	95.0%	90.5%	100.0%	A
21	★17-1		「自分には、よいところがある」と答えた割合(全国学力・学習状況調査)	教育指導課	小 81.6%	小 87.0%	小 82.7%	小 77.8%	A
22	★17-2				中 76.2%	中 82.0%	中 78.5%	中 75.9%	A
23	★18-1		「今住んでいる地域の行事に参加している」と答えた割合(全国学力・学習状況調査)	教育指導課	小 83.3%	小 88.0%	小 85.2%	小 72.2%	B
24	★18-2				中 67.5%	中 72.0%	中 69.3%	中 56.8%	B
25	★19-1		「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい」と答えた割合(全国学力・学習状況調査)	教育指導課	小 66.9%	小 72.0%	質問項目なし	—	—
26	★19-2				中 58.7%	中 64.0%	質問項目なし	—	—
27	★20		情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を身につけさせるための研修会や授業を行った学校の割合	教育指導課	—	小中学校ともに 100.0%	小中学校ともに 100.0%	小 100.0%	A
28		中 100.0%			A				

施策の基本的方向			【基本目標2】 5.健やかな体の育成							
連番	No.	基本的方向	指標(進捗管理目標)	担当課	計画策定時	目標(R7)	目標(R4)	実績(R4)	事業の評価	
29	★21-1	5	新体力テストの体力合計得点 ・小学5年生	すこやか教育推進課	男子:50.99点	男女ともに	男子:51.78点	男子:50.28点	A	
30	★21-2				女子:52.81点	55.00点	女子:52.77点	女子:51.59点	A	
31	★21-3				新体力テストの体力合計得点 ・中学2年生	男子:41.86点	男子:43.00点	男子:42.01点	男子:39.27点	A
32	★21-4					女子:48.32点	女子:50.00点	女子:48.85点	女子:44.54点	A
33	★22-1		バランスのとれた食事をすることは大切だと思っている児童・生徒の割合(食育アンケート)	すこやか教育推進課	小5 98.0%	小中学校とともに	小中学校とともに	小5 98.4%	A	
34	★22-2				中2 99.1%	100.0%	100.0%	中2 98.5%	A	
35	★22-3		朝食を毎日食べる児童・生徒の割合(食育アンケート)	すこやか教育推進課	小5 90.6%	小5 93.0%	小5 91.0%	小5 89.2%	A	
36	★22-4				中2 86.1%	中2 90.0%	中2 88.0%	中2 82.3%	A	

施策の基本的方向			【基本目標3】 6.学校・家庭・地域による教育環境づくり						
連番	No.	基本的方向	指標(進捗管理目標)	担当課	計画策定時	目標(R7)	目標(R4)	実績(R4)	事業の評価
37	★23	6	「長浜子どもちかい」「長浜子育て憲章」の保護者・地域・各団体への周知、啓発回数	教育改革推進室	91回	100回	95回	90回	A
38	★24		地域とともに進めるよりよい学校づくり満足度(長浜市民満足度調査)	教育指導課	3.39点	3.50点	3.40点	3.12点	A
39	★25		スクールガードについて、次のいずれかを充足した小学校数 ・スクールガード登録率(登録者数/児童数) 25%以上 ・通学距離・危険箇所での必要人数率(登録者数/必要数) 100%以上	すこやか教育推進課	22校 (25小学校中)	25校	22校 (25小学校中)	20校 (25小学校中)	A
①	26		児童虐待に関する啓発回数	こども家庭支援課	9回	15回	13回	10回	B

施策の基本的方向			【基本目標3】 7.子育て支援体制の充実						
連番	No.	基本的方向	指標(進捗管理目標)	担当課	計画策定時	目標(R7)	目標(R4)	実績(R4)	事業の評価
40	★27	7	保育所・認定こども園(長時部)の待機児童数	幼児課	35人	0人	13人	5人	A
②	28		ひとり親家庭の相談件数	こども家庭支援課	2,122件	2,500件	2,300件	2,321件	A
③	29		放課後児童クラブの待機児童数	こども家庭支援課	214人	0人	0人	0人	A

施策の基本的方向			【基本目標3】 8.人権尊重の社会づくりの推進						
連番	No.	基本的方向	指標(進捗管理目標)	担当課	計画策定時	目標(R7)	目標(R4)	実績(R4)	事業の評価
④	30	8	自治会での人権学習会の評価(5段階評価)	人権施策推進課	4.6	4.8	4.6	3.7	B
⑤	31		固定的な性別役割分担意識にとられない人の割合(男女共同参画に関する市民意識調査)	人権施策推進課	58.90%	70.0%	70.0%	— ※	— ※

※男女共同参画に関する市民意識調査は5年ごとに調査(令和3年度実施)となっており、令和4年度調査がなかったため。

施策の基本的方向			【基本目標4】 9.地域の伝統・歴史・文化の継承						
連番	No.	基本的方向	指標(進捗管理目標)	担当課	計画策定時	目標(R7)	目標(R4)	実績(R4)	事業の評価
⑥	32	9	指定文化財の件数	生涯学習課(文化財保護室)	453件	459件	472件	470件	A
⑦	33		地域にある文化財を保護・活用する保存活用団体等の数	文化観光課(歴史まちづくり室)	1件	3件	1件	1件	A
⑧	34		長浜城歴史博物館の入館者数	文化観光課(歴史まちづくり室)	99,481人	130,000人	110,000人	90,118人	C

施策の基本的方向			【基本目標5】 10.人生100年時代を見据えた生涯学習の推進						
連番	No.	基本的方向	指標(進捗管理目標)	担当課	計画策定時	目標(R7)	目標(R4)	実績(R4)	事業の評価
41	★35-1	10	地域に根ざした生涯学習事業(学びと生涯学習のまちづくり推進事業)の計画講座数	生涯学習課	429講座	460講座	450講座	353講座	B
42	★35-2		子ども学び座の計画講座数	生涯学習課	→上段に統合	→上段に統合	→上段に統合	→上段に統合	-
43	★36		生涯学習講座(学びなおし講座)の計画講座数	生涯学習課	9講座	12講座	12講座	9講座	B
44	★37		リーダー育成事業 目標人数に対する参加率	生涯学習課	80.0%	90.0%	80.0%	81.0%	A
45	★39		レファレンス事例のホームページ公開件数	生涯学習課(図書館)	—	15件	5件	15件	A
46	★40		図書館における貸出冊数	生涯学習課(図書館)	873,970冊	1,300,000冊	1,000,000冊	847,524冊	B
47	★41-1		1か月間の読書冊数が1冊以下の割合 ・小学4年から6年生	生涯学習課(図書館)	8.8%	7.5%	8.3%	12.1%	C
48	★41-2		1か月間の読書冊数が1冊以下の割合 ・中学生		33.9%	15.0%	26.3%	39.2%	C

施策の基本的方向			【基本目標5】 11.文化・芸術の創造と振興						
連番	No.	基本的方向	指標(進捗管理目標)	担当課	計画策定時	目標(R7)	目標(R4)	実績(R4)	事業の評価
⑨	42-1	11	長浜市文化芸術ユース会議実施イベントの参加者数	文化スポーツ課	812人	900人	820人	1,388人	A
⑩	42-2		自校主催の吹奏楽演奏会を開催している中学校の数	文化スポーツ課	4校	5校	4校	3校	B
⑪	43-1		長浜市舞台芸術交流祭の参加団体数	文化スポーツ課	8団体	9団体	8団体	14団体	A
⑫	43-2		長浜市芸術文化祭の参加事業数	文化スポーツ課	54事業	60事業	事業終了	事業終了	-
⑬	43-3		長浜市民芸術文化創造協議会会員数	文化スポーツ課	8団体	9団体	9団体	9団体	A

施策の基本的方向			【基本目標5】 12.スポーツ活動の推進						
連番	No.	基本的方向	指標(進捗管理目標)	担当課	計画策定時	目標(R7)	目標(R4)	実績(R4)	事業の評価
⑭	44-1	12	スポーツ施設利用者数(学校開放事業除く)	文化スポーツ課	530,239人	560,000人	530,000人	571,798人	A
⑮	44-2		全国規模大会開催数	文化スポーツ課	4件	15件	4件	4件	A

施策の基本的方向			【基本目標6】 13.質の高い教育のための環境整備						
連番	No.	基本的方向	指標(進捗管理目標)	担当課	計画策定時	目標(R7)	目標(R4)	実績(R4)	事業の評価
49	★47-1	13	小学校・中学校・義務教育学校のエレベーター設置割合	教育総務課	小:52.2%	小:60.0%	小:52.2%	小:52.2%	A
50	★47-2				中:70.0%	中:100.0%	中:70.0%	中:70.0%	A
51	★47-3				義:100.0%	義:100.0%	義:100.0%	義:100.0%	A
52	★47-4				合計:60.0%	合計:74.0%	合計:60.0%	合計:60.0%	A
53	★49		自主啓発研修・研究発表会等に、主体的に参加した教職員の人数	教育センター	延べ773人	延べ966人	延べ850人	延べ1,133人	A
54	★51-1		本市において適正に配置されていると考える学校の割合	教育改革推進室	82.9%	85.0%	83.0%	82.9%	A
55	★51-2		小中一貫教育により「学習指導」、「生徒指導」、「教職員の意識改革」に効果が認められたと回答した教職員の割合	教育改革推進室	70.8%	前年度比+0.5%	72.0%	86.7%	A

下段(): 全事業のうち、外部評価を受けた事業数

教育大綱	A	B	C	D	評価なし	計
基本目標1	4 (4)	1 (1)	—	—	—	5 (5)
基本目標2	21 (21)	4 (4)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	31 (31)
基本目標3	6 (4)	2 (0)	—	—	1 (0)	9 (4)
基本目標4	2 (0)	—	1 (0)	—	—	3 (0)
基本目標5	7 (2)	4 (3)	2 (2)	—	2 (1)	15 (8)
基本目標6	7 (7)	—	—	—	—	7 (7)
計	47 (38)	11 (8)	5 (4)	2 (2)	5 (3)	70 (55)

(2)その他事業 ※指標(進捗管理目標)がない施策

施策の基本的方向		【基本目標2】 2.一人ひとりを大切にする教育の推進			
No.	具体的な施策	主な事業又は取組	目的	担当課	事業の評価
★6	きめ細かな指導の充実と学習方法の工夫改善	学ぶ力向上推進事業	標準学力検査を実施し、児童生徒の学力を全国基準で評価・分析することで、前学年までの学習状況をより客観的に把握する。また詳細な分析を活用して、指導者が自身の指導法について振り返ることにより、さらなる授業改善や充実を図る。	教育指導課	達成
		学校ICT活用事業	1人1台端末等のICT機器の活用促進、教職員のICT活用指導力の向上、ICTを効果的に活用した授業づくりを支援し、すべての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する。	教育改革推進室	達成
		学校支援事業	各校の教育課題に応じて、特色ある教育活動を推進する。	教育指導課	達成
★10	日本語指導が必要な児童生徒への支援	外国人児童生徒教育サポート事業	各サポート支援員および初期指導員との定期的な面談や学校訪問を実施し、学校現場での実態把握を行った。また、各校の日本語指導担当者連絡会を開催し、情報交換を行った。	教育指導課	達成

施策の基本的方向		【基本目標2】 3.確かな学力の育成			
No.	具体的な施策	主な事業又は取組	目的	担当課	事業の評価
★12	言葉の力の育成	学校図書館教育の推進	学校司書を配置し、司書教諭等と連携協力しながら学校図書館の整備を進める。 学校司書の資質・能力の向上を図る。	教育指導課	達成
★14	理科教育の推進	「長浜学びの実験室」実施事業	児童生徒の自然科学への興味・関心を高め、探求心と問題解決能力を育成する。 小・中・義務教育学校における理科教育指導の一層の向上と充実を図る。	教育指導課	達成
		親子科学実験講座事業	児童の自然科学への興味・関心や知的好奇心を高める。	教育指導課	達成

施策の基本的方向		【基本目標2】 4.豊かな心の育成			
No.	具体的な施策	主な事業又は取組	目的	担当課	事業の評価
★19	グローバルな視点での教育活動の推進	英語キャンプの実施	児童生徒の英語による発信力を高める。	教育指導課	達成
		環境教育の推進	環境保全の体験活動を通して、環境に対する理解と関心を高め、持続可能な社会の構築に向けて主体的に取り組める子どもを育成する。	教育指導課	達成

施策の基本的方向		【基本目標3】 8.学校・家庭・地域のつながりを深め、地域全体の教育力の向上をめざします			
No.	具体的な施策	主な事業又は取組	目的	担当課	事業の評価
31	男女共同参画に関する学習機会・啓発等の推進	長浜ジョブカフェ事業	地域・家庭・職場等様々な場面で、女性が活躍できる社会の実現をめざす。	人権施策推進課	達成

施策の基本的方向		【基本目標5】 10.人生100年時代を見据えた生涯学習の推進			
No.	具体的な施策	主な事業又は取組	目的	担当課	事業の評価
★38	学びのための情報発信	学びの機会や場の情報提供	市民が様々な手段で気軽に生涯学習講座などの情報を得る機会をつくる。	生涯学習課	達成

施策の基本的方向		【基本目標5】 12.スポーツ活動の推進			
No.	具体的な施策	主な事業又は取組	目的	担当課	事業の評価
45	「みる」スポーツの推進	ながはまスポーツ夢プロジェクト	子どもたちが著名なアスリートや指導者と触れ合う機会を提供することで、スポーツに対する夢や希望を育む。	文化スポーツ課	達成
		各スポーツ大会への助成	市内で開催されるスポーツ大会への助成を行い、市民の「みる」スポーツへの関心を高める。		達成
46	「ささえる」スポーツの推進	各スポーツ団体への助成	スポーツ団体への助成を実施し、特に国スポ・障スポ大会の長浜市開催競技団体の組織強化を図る。	スポーツ振興課	達成
		総合型地域スポーツクラブの育成・支援	クラブの育成・支援を行うことで、地域の実情に応じたきめ細やかなスポーツ活動を推進する。		達成

施策の基本的方向		【基本目標6】 13.質の高い教育のための環境整備			
No.	具体的な施策	主な事業又は取組	目的	担当課	事業の評価
★47	誰もが安心して学べる学校・園施設等の整備	浅井中学校長寿命化改修事業	学校施設等を健全な状態で維持し、機能や性能を現在求められている水準まで引き上げる。	教育総務課	達成
		学校・園防犯機能強化事業	学校・園において、子どもたちが安心して学び、生活を送れるよう、施設の防犯機能の強化を図る。		達成
★48	就学援助による経済的支援	要保護標準要保護児童生徒援助事業	経済的理由によって就学困難と認められる児童及び生徒へ就学援助等を行い、義務教育の円滑な実施に資する。	すこやか教育推進課	達成
		特別支援教育就学奨励事業	教育の機会均等の趣旨にのっとり、小・中・義務教育学校の特別支援学級の児童・生徒の保護者へ、就学に必要な経費の一部を支給することにより、特別支援教育の普及奨励及び振興に資する。		達成
★50	教職員の働き方改革の推進	職員のワークライフバランスの取組の推進	『長浜市立学校における働き方改革取組方針』に基づき、各学校の業務改善や校務分掌の見直しと教職員の意識改革を図る。	教育指導課	未達成

下段():全事業のうち、外部評価を受けた事業数

教育大綱	達成	未達成	計
基本目標1	-	-	-
基本目標2	9 (9)	-	9 (9)
基本目標3	1 (0)	-	1 (0)
基本目標4	-	-	-
基本目標5	5 (1)		5 (1)
基本目標6	4 (4)	1 (1)	5 (5)
計	19 (14)	1 (1)	20 (15)

◇事務評価委員会所見等

【総括】

事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等【教育総務課】
外部委員が、客観的に事務事業を評価するにあたり、拠り所になる資料はこの報告書のみである。資料には、指標がある施策には客観的な評価に耐えられるデータが明確に記載されていないため、具体的な項目やそれに付随する数値を明確に示して欲しい。	外部委員が客観的に評価ができるよう、指標の意図や根拠となる具体的な項目、数値等を記載するなど、報告書の改善を図ります。
「A評価」や「達成」となった事業が多くあり、教育行政の皆さんが綿密に計画を立てられ、様々な課題において解決の方法を考え、日々力を注いでこられた成果だと感じた。今後も、子どもたち一人ひとりを大切にしたい教育をさらに促進していただければと思うので、よろしく願いたい。	子どもたち一人ひとりを大切にしたい教育をさらに促進していただけるよう、教育委員会事務局をはじめ関係各課・機関が一体となり、教育行政の充実に向けて取り組みます。
ほとんどが「A評価」で素晴らしい結果だと見せていただいた。子どもを育てる保護者として、知らない事も非常に多くあり、こんなにたくさんの事を長浜市がしてくださっているという事を改めて感じた。ぜひとも、市民一人ひとりに届くような情報発信をしていただければと思う。	教育委員会での取組や成果について、様々な媒体を活用し、積極的かつきめ細かに発信していきます。また、今年度からは、教育委員会のTwitterページを開設したため、よりリアルタイムに情報が発信できるように努めます。
子どもたちや現場のために、目標を立てて実施された事務事業の評価を見せただけ、このように考えてくださっているから、子どもたちが楽しく学校に通わせていただけているというのが分かった。他の保護者にも実施されている事業等について、分かりやすく知ることができる機会があれば良いと感じた。	保護者等に向けて、事業や取組がより分かりやすく伝わるよう、様々な方法による情報発信を行います。
評価基準の軸を、指標がある事業と指標がない事業に分けて評価できたのは、評価の客観性を担保するという意味において、大変良かったと思う。 A評価の上限が100%超となっているが、これは結果としての数値であり、個人的は何ら問題はないと思っている。従前のように100%超を最上の評価として位置付けているわけではないため、働き方改革の趣旨に何ら抵触するものではないと考える。 むしろ、教職員の皆さんのモチベーションの高さがこのような結果となって表れたと理解している。このことは非常に大切なことであり、今後の事務事業を実施するにあたってプラスの方向で作用する事が大いに期待されると考える。	今後も、評価の客観性を担保できるような事業評価を行います。また、教職員のモチベーションをさらに高め、子どもたちのため様々な施策に取り組みます。
評価全体であるが、昨年度と比較し、A評価の割合は減少しているが、100%超の割合は増加している。また、達成の割合も昨年度を大きく上回っている。これは、令和4年度の目標値が低かったからではなく、担当課の教職員の皆さんが目標達成に向けて、多大なるご尽力をされた結果だと理解している。	今後も、A評価や達成の割合が少しでも多くなるよう、教職員一人ひとりが目標達成に向けた教育施策の充実に努めます。

(3) 事業別評価結果

基本目標1

乳幼児期における就学前教育を充実します

事業No.に★がついている事業は外部評価の対象です。

教育大綱・基本目標	1 乳幼児期における就学前教育を充実します
施策の基本的方向	1 生きる力の基礎を培う就学前教育の充実

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(1) 特色ある教育・保育の実践						
教育要領等の改訂に伴い、長浜市就学前教育カリキュラムの見直しを図り、各園の子どもの実態や課題を考慮した直接的、具体的な体験を通して学び質の高い教育・保育の一層の充実に努めます。特に園区の地域自然や文化とのふれあい、さらに施設や人材の活用を図る等、地域性を生かした総合的で特色のある教育・保育活動を実践します。						
指 標(進捗管理目標)		計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
園の教育課程及び指導計画に、特色ある保育内容を取り入れている割合		50.0%	100.0%	60.0%	55.0%	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)			決算(千円)	担当課
① 特色ある教育・保育の実践	身近な自然を生かした体験活動の充実や地域の施設・人材の活用を図る等、地域性を生かした特色ある教育・保育を進める中で、魅力ある園づくりを進める。	「乳児担当制」「リトミック実技」等、特色ある保育を進めるための研修を17園で行った。また「2、3年次研修」「主幹研修」等のステージ研修を対象職員に計67回実施し、保育の質の向上を図った。			1,518	幼児課
② 長浜市就学前教育カリキュラムの改訂事業	幼稚園教育要領、保育所保育指針等の改訂に伴い、長浜市就学前教育カリキュラムの見直しを行い、より質の高い就学前教育の推進を図る。	カリキュラム改訂委員会を立ち上げ、8回の委員会を行い、新教育要領等の変更点やカリキュラム改訂の方向性を踏まえた見直しや、長浜市就学前教育カリキュラム改訂研修を1回行った。			29	幼児課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと	園長会や副園長会の機会を捉えて、各園で特色ある教育・保育に取り組むことの重要性を伝え、園の教育課程や指導計画に反映できるよう啓発した。					
課題・今後の取組	特色ある教育・保育の推進をするとともに、各園の取組が分かるように「見える化」していく必要がある。学識経験者の助言を基にして、カリキュラム改訂委員会で取り組んだ成果を、長浜市就学前教育カリキュラムに反映し、園への周知をすすめていく。					

教育大綱・基本目標	1 乳幼児期における就学前教育を充実します
施策の基本的方向	1 生きる力の基礎を培う就学前教育の充実

★(2) 主体的な学びを育む教育・保育の充実

子どもが身近な自然や物的・人的環境等に主体的に関わる中で、興味関心を広げ夢中になって遊びを創造する楽しさを味わうことのできる教育・保育の充実に努めます。また地域の自然を生かした体験活動や集団遊び等の多様な活動を通して、人と関わるコミュニケーション能力や基礎的な体力・運動機能の向上を図ります。

指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を実感した割合（保護者アンケート）	—	70.0%	60.0%	91.2%	A

主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	担当課
① 主体的な学びを育む保育活動の推進	多様な経験や集団あそび等、子どもたちが夢中になって取り組む遊びを創造することで、意欲や自信さらにはコミュニケーション力を培う。	子どもが楽しみながら主体的に体を動かすことのできる園庭環境づくりや保育内容の見直しをテーマに、2園で研究を行った。	170	幼児課
② 運動あそび推進事業	発達に合わせた体系的な運動を行うことで、その時期に身に付けることのできる基礎的な運動能力や体力を培う。	各園において、子どもの発達に合わせた運動あそびを行い、基礎的な運動能力や体力、意欲の向上を図った。運動指導員が若手職員への訪問指導を実施するとともに、公立18園で親子あそびを実施し、保護者啓発を行った。	62	幼児課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)				
工夫・努力したこと	園庭環境や保育内容について学識経験者より学び、主体的に体を動かして遊ぶことができる環境づくりを考える機会を提供した。 運動指導員が希望園に出向き、親子ふれあい遊びを実施することで保護者啓発に努めた。			
課題・今後の取組	主体的に体を動かすことのできる園庭環境について、研究園の取組や成果を発表する機会をつくり、全職員が学び合い、各園における遊びの充実を図る予定である。 園における運動あそびの推進方法について再度共有する機会を設け、よりよい保育の提供と環境づくりをめざす。 園で取り組んでいる運動あそびを小学校へどのようにつなげていこうかが課題である。			

◇事務評価委員会所見等

事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等【幼児課】
乳幼児教育というのは、とても見えにくい教育であり、子どもたちが園生活を送る中で、どういった部分が育っているのかがなかなか分かりづらい中で、91.2%という数値が出てきたのは素晴らしいことだと思う。また、幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」というものがあるが、「5歳までに達成しなければならない姿」という誤解を招く恐れがあり、保護者が辛い思いをする事にもなりかねないため、あくまで方向性を示すものであり、到達目標だと誤解をされないように、保護者に対して正しい理解を促して行って欲しい。	令和3年度末より「就学前教育における子どもの育ちに関する調査」(5歳児の保護者対象)を行っています。 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をより具体的に表した子どもの姿(15項目)で、お子さんの姿として当てはまるかをお聞きし、15項目の平均値を指標としています。 ご指摘のような誤解が生じないように保護者への周知をしていきたいと思っています。
親子ふれあい遊びで、自分自身も楽しく体験させていただき、子どもたちがこんなに動く事ができるのかとても感心した。小学校低学年くらいまで、この事業を実施していただければ、幼小連携もさらに進むのではないと思う。小学生になると親子の触れ合いも減ってしまうため、プログラムのこような事を考えていただければと感じた。	就学前で楽しんできた運動遊びを小学校へつなげていくことは課題と感じています。幼小連携の一つとして、小学校の先生方に興味を持っていただくような機会を増やしていきたいと思っています。
主催者側で何度か参加させていただいた事があるが、若手の職員の皆さんが一所懸命参加されており、発達に関わる良い研修だと思うので是非続けていっていただきたい。	若い職員も負担なく取り組めるよう、短時間の体を動かす機会を一日の保育に取り入れていくことを伝えております。 研修会についても継続的に実施していきます。

教育大綱・基本目標	1 乳幼児期における就学前教育を充実します
施策の基本的方向	1 生きる力の基礎を培う就学前教育の充実

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(3) 一人ひとりの特性に応じた支援体制の充実						
関係機関や小学校との連携を図る中で、各園における支援体制の強化を図ります。また、支援児や外国籍児に対して、一人ひとりの発達や特性に応じた支援について職員のスキル向上をめざし研修体制の充実に努めます。						
指 標(進捗管理目標)		計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
特別支援教育士資格の取得者数		1人	5人	取得者1人 ※受講者4人	取得者1人 ※受講者4人	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)			決算(千円)	担当課
① 特別支援教育体制の充実	一人ひとりの特性に応じ適切な支援内容及び体制を整えることで、就学前特別支援教育の充実を図る。	認定こども園1園に支援ルームを増設し、特別支援教育指導員を中心とした園内の支援体制を整えた。 支援児や外国籍児に対する適切な支援につながるよう、専門家による指導や研修を実施した。			1,189 1,903	幼児課 教育指導課
② 特別支援教育推進における人材育成	職員の特別支援にかかわる専門的な知識や技能、指導力の向上を図る。	経験年数や立場に応じた特別支援にかかわる研修を実施した(スキルアップ研修)。 特別支援教育士の資格取得に向けて体制を整え、新たに2名が研修の受講を開始した。			401 142	幼児課 教育指導課
低評価となった理由(D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと		充実した支援に向けての園内環境整備や支援の質向上について、園長会で周知した。 特別支援教育指導員が実践的な学びを深め、より専門性を高めるための研修内容を検討した。				
課題・今後の取組		園内支援充実のため、支援ルームの活用や特別支援教育推進員による相談を行っていく。 びわ認定こども園に支援ルームを増設し、環境整備を整えるとともに園内支援の充実を図っていく。 支援ルーム設置園を拠点として、全園の支援加配が学び合う研修体制を構築する。				

教育大綱・基本目標	1 乳幼児期における就学前教育を充実します
施策の基本的方向	1 生きる力の基礎を培う就学前教育の充実

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(4) 言葉の力の基礎の育成						
親子による絵本等の読み聞かせの推進により、乳幼児期の成長に必要な不可欠な親子でのコミュニケーションを生み出すとともに、絵本を通じたふれあいの中で、想像力や言葉の表現・意味の理解、聞く力等、子どもたちに言葉の力の基礎を育みます。						
指 標(進捗管理目標)		計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
家庭において、乳幼児に週2日以上読み聞かせを実施している割合		-	90.0%	70.0%	61.0%	B
主な事業又は取組	目的	成果(実績)			決算(千円)	担当課
① 豊かなことばを育む指導の充実	絵本やお話、ことば遊びなどを通して、豊かなことばを育み、話す力、聞く力、伝え合う力等を育成し、就学前教育の指導力向上を図る。	研究指定園2園で、研究保育や語彙調査などを実施し、豊かなことばを育む指導の在り方を研究すると共に、豊かなことばについての研修会を実施した。			32	幼児課
② 親子での絵本等の読み聞かせ推進	親子による絵本等の読み聞かせを通して、親子でのコミュニケーションや乳幼児期に必要な愛着関係を養う。	公立園11園において「おうちで読書」推進事業に参加し、親子で絵本に触れ、家庭での読み聞かせのきっかけやとなった。また、図書館の団体貸し出しの利用を図書館と連携し副園長会で啓発した。			582	幼児課
低評価となった理由(D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと		豊かなことばを育むため、学識経験者に保育を見てもらい、指導助言をしていただき、研究を深めた。「お家で読書」推進事業で親子で絵本に触れる機会を作ったり、絵本の部屋の充実、絵本だより等で子どもたちが興味を持っている絵本の紹介をし、絵本に親しめるよう啓発した。アンケート期間の延長・各園からの呼びかけにより回答率は65%に上昇した。(R3年度33%)				
課題・今後の取組		豊かなことばの研究の中で語彙調査を行ったが、調査結果をどのように研究に活用するかの検討が必要である。回答率は改善できたが、実績値としては、R3年度(61.0%)と横ばいであった。家庭で絵本に親しむ機会が増えるよう、早い時期から絵本に興味をもてるような環境や親子で絵本に親しめる機会をつくっていく。				

◇事務評価委員会所見等

事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等【幼児課】
小学校でも、週に1度本を借りてくると思うので、親子の読み聞かせの経験を小学校でもうまく繋いでいければ良いのではないかな。	今後の園小連携の中で、親子の読み聞かせのつなぎについても協議していきたいと思います。
園の絵本を読むという環境が、なかなか整いつらいのかなと感じる。子どもが通っている園でも、結構古い絵本があったり、なかなか冊数が増えなかったりすることもあるが、絵本の環境も整えていただきながら、絵本を読む機会を増やして欲しい。	毎年各園には絵本購入費用として図書費を配当していますが、十分ではないと認識しています。今後も図書費を増やしていけるように努めていくとともに、図書館の団体貸出も活用していきます。また、園内で絵本に親しみやすい環境になるよう、ボランティアの方々のご協力もいただきながら、絵本の部屋の環境を整備していきたいと思えます。
園で絵本を借りてきて、親子で読んで、感想を書くのが負担になるという保護者もおられると思うので、ご家庭に応じて楽しく読書ができるような環境を整えば良いと思う。	親子の関わりを深める意味でも絵本は有効な手段だと考えます。負担のないよう保護者の思いにも寄り添いながら、親子で絵本に親しめる機会を提供したいと思えます。

教育大綱・基本目標	1 乳幼児期における就学前教育を充実します
施策の基本的方向	1 生きる力の基礎を培う就学前教育の充実

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(5) 就学前教育から小学校教育への円滑な接続の推進						
就学前教育と小学校教育以上の学校教育を貫く「資質・能力の3つの柱」を基本に、園と小学校の連携のもとにアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの見直しを図り、園から小学校への円滑な接続ができるように、発達や学びの連続性を踏まえた指導の充実を図ります。また、園と家庭、地域が連携・協働体制を構築し、子どもの学びを豊かなものにしていきます。						
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価	
アプローチ・スタートカリキュラムをテーマにした園小連携及び研究会の実施校区の数	1小学校区 (25小学校区中)	全小学校区	4小学校区	4小学校区	A	
主な事業又は取組	目的	成果(実績)			決算(千円)	担当課
① 園小接続カリキュラムの推進事業	教育要領等に示される「資質・能力の3つの力」の育成に向け、就学前の学びを小学校へと滑らかに接続する。	長浜市教育センターと連携し、園小中をつなぐ「ことば」を窓口にした公開保育・授業・研修会を実施した。園の取組が小学校以降の学びにつながることを改めて学べた。			0	幼児課
② 園小連携推進事業	各校区における子どもの課題やめざす姿を明らかにし、園・小・中・義務教育学校が連携し、発達や学びの連続性を踏まえた指導をする。	一部の地区では園小連携を深め、保育・授業参観、意見交換会などを行い、互いの教育の在り方や育ちと学びの連続性について確認し合った。			0	幼児課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと	園小の連携を推進するため、教育センターと連携し、就学前からつなぐ「ことばの力」の育成に関する研究を行い、園と小学校、そして中学校へと育ちが繋がっていく連続性について学び合う機会を作った。園小中の滑らかな連携を目指して、園小中接続協議会の令和5年度実施に向けて、教育指導課と協議を進めた。					
課題・今後の取組	研究校区については連携が深まっているが、他の学区については園小連携が進みにくい課題がある。園小中の滑らかな接続に向けて、中学校区ごとにつながり合う機会をつくり、私立園も含めて小学校とスムーズに連携がとれるようにしていく。教育指導課と連携し、園小接続カリキュラム作成についても発信していく必要がある。					

◇事務評価委員会所見等

事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等【幼児課】
子どもたちが安心して小学校生活がスタートできるように、園小連携を推進されていると思うが、もう少し実施校区があれば良いと思う。また、行事の交流だけではなく、資質能力の部分を繋いでいくカリキュラム作成の方向にシフトしていく事ができれば良いのではないかと。	令和5年度より、公私立全園と小中学校の管理職が集まり、中学校区の子どもの姿を共有した「園小中接続協議会」や、園小担当者が学びをつなぐことの見直しなどを行う「園小接続研修会」を実施しています。まずはお互いを知り合うことを大切にして、園小接続カリキュラムでつないでいけるよう進めていきたいと考えています。

基本目標2

子どもの自立に向けて
「生きる力」を育む教育を推進します

事業No.に★がついている事業は外部評価の対象です。

教育大綱・基本目標	2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します
施策の基本的方向	2 一人ひとりを大切に教育の推進

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(7) いじめ防止対策の総合的な推進					
いじめは、どの子どもにも、どの学校でも起こりうることを踏まえ、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、「長浜市いじめ防止等の基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見、早期対応のための対策を総合的に推進します。また、自分らしさを発揮し、互いに認めあい、支えあい、いじめを生まない・許さない社会の実現に向けて主体的に取り組もうとする子どもを育成します。					
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
いじめと認知され、対応することができた件数 ※「いじめを見逃さない」という考えから、積極的に認知します。	小学校192件	前年比増	小学校200件	小学校156件	B
	中学校 75件	前年比増	中学校100件	中学校 60件	C
いじめの解消率	小学校78.0%	小中学校ともに 100.0%	小中学校ともに 100.0%	小学校72.4%	B
	中学校84.0%			中学校65.0%	C
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 学校支援チーム活用事業	様々な社会情勢や家庭環境を背景に、児童生徒・教職員に関わる重篤な問題事案に対して、弁護士や精神科医から専門的指導・アドバイスを受け、学校の初期対応・事後対応を円滑に進める。	学校から、弁護士51件、精神科医4件の相談があり、弁護士、精神科医それぞれからの確かな指導とアドバイスをいただいた。その結果、早期課題解決や問題の改善へとつながった。また、法律や医療的見地からアドバイスをいただけたので、職員や学校が自信をもって対応にあたることができた。		486	教育指導課
② スクールソーシャルワーカー活用事業	課題を抱える児童生徒の背景を福祉的な側面からアセスメントし、個に応じた効果的な関わりにつなげる。	スクールソーシャルワーカーを年間延べ258ケース学校に派遣した。専門的知見を活かし、子どもを取り巻く環境要因への働きかけを行った。		2,356	教育指導課
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	学校支援チーム活用事業では、予め相談する事柄を紙面にまとめてきていただいたことで、割り当てられた時間内に相談を終えられるようになってきた。また、教育委員会が抱えている課題についても、割愛教員が弁護士に相談できるようにした。スクールソーシャルワーカー活用事業では、学校からニーズがあった時に迅速に対応するように教育指導課とワーカーが連携して取り組んだ。				
課題・今後の取組	学校支援チーム活用事業では、今までの経験に弁護士や精神科医の専門的なアドバイスが加わることにより、学校や教職員が自信をもち、かつ見通しをもって事案に対応することができている。スクールソーシャルワーカー活用事業では、外部専門家としてのスクールソーシャルワーカーの派遣依頼は多く、今後も増加傾向が予想される。この学校現場のニーズにどう答えるかが課題である。いじめの認知については、年度初めに各学校に対して積極的に認知するように周知していく。				

◇事務評価委員会所見等

事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等【教育指導課】
いじめを見つけないといけないという事で、こういった指標とされていると思うが、件数だけで評価して良いかどうかは疑問を感じる。	教育委員会では、いじめの見逃しを防ぐためにも、学校にはいじめの疑いも含めて被害者の訴えに寄り添った積極的ないじめの認知を依頼しています。
指標の評価が見えにくくなっているという意見もあるが、ここでの指標は「いじめを積極的に認知する」という事を前提にした件数である。この立場からすると、私自身はここでの評価は積極的に認知ができなかったという理解に基づき評価されたものと考えられるため、逆に事業の評価が高くなる可能性も考えられると思う。指標については、個人的には理解の仕方により、異なった評価がされる可能性がある事を認識する必要があると考えるため、一方的な判断は断定的にされない方が良いのではないと思う。様々な評価が可能だと思うので、そのあたりは慎重に判断すべきだと思う。	小学校、中学校、義務教育学校において、前年度より認知件数が減少するように努力することは、子どもたちの安心安全な学校生活につながることを考えます。しかしながら、数字を小さくすることだけにこだわりすぎると、学校内で発生しているいじめを見逃してしまうことが危惧されます。そこで、いじめを積極的に認知することによる認知数の増加は、教師が子どもをしっかりみている証だと学校に周知し、いじめを積極的に認知するための指標として設定しています。
「3ヶ月いじめがなければ解消」という事にされていると思うが、これだけでいじめが解消されたと判断するのは少し危険かと思う。もう少し違う良い指標があれば良いと感じた。	文部科学省が示す、いじめが『解消している』状態とは、「被害者に対する心理的または物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む)が止んでいる状態が相当の期間継続していること」とし、相当の期間については3か月を目安としています。さらに、「被害者が心身の苦痛を受けていないこと」の2つの条件が満たされて解消と記しています。学校には、被害者本人や保護者への面談などで心身の苦痛を感じていないかどうかを確認すること、いじめが解消している状態に至ったあとも日常的に注意深く観察することの2点を指導しています。

教育大綱・基本目標	2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します
施策の基本的方向	2 一人ひとりを大切にしている教育の推進

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(8) 特別支援教育の推進					
各園小中学校間の連携のもと、しょうがいのある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた個別の指導計画及び教育支援計画の作成を一層進め、長期的な視点で子どもの自立に向けての適切な指導や支援を行います。また、子どもに関わる教職員の専門性向上の取組を進めるとともに、インクルーシブ教育システムの構築に努めます。					
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
通常学級に在籍している児童生徒のうち、支援が必要と考えられる者で、「個別の指導計画」が学校で作成されている割合	93.0%	100.0%	94.0%	100.0%	A
特別支援学級在籍児童生徒及び通級による指導を受ける児童生徒の「個別の教育支援計画」を作成する割合	—	100.0%	100.0%	100.0%	A
特別支援学校教諭免許状の取得者数	69人	前年比増	85人	92人	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 特別支援教育学校支援体制充実事業	特別支援教育に関する教職員の専門性を高め、適切な指導・支援が行える体制を整え、就学前からの切れ目のない支援体制を整備し、インクルーシブ教育システムの構築を図る。	専門家チームによる巡回相談を22校に66回、発達サポート事業を12校に21回実施した。 合理的配慮支援員を49名、医療的ケアのための看護師を4名、介助員を2名配置した。 教育委員会委託医による医療相談を年間11回実施した。		36,407	教育指導課
② 特別支援教育学校支援事業	体験的な活動等を通して子どもの自立や健やかな成長を促す。また、個々の教育的ニーズにあった適切な指導・支援を充実させる。	特別支援学級の合同交流会をブロック毎、または中学校区毎で集まるなど形を変えて実施した。 3校の通級指導教室サテライト教室を開設、5校の巡回指導を実施した。		378	教育指導課
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	コロナ禍により、合同合宿や合同発表会などの大勢が一会場に集まったの大規模な体験活動は実施が難しかった。そのため、ブロック毎や中学校区毎の数が集まって合同交流会や合同発表会を実施するなど開催方法を工夫して行った。				
課題・今後の取組	令和5年度に通級指導教室の新設が1校実現したが、依然適正な対象児童数を超える運営状況が続くため、計画的に新設を要望していく。巡回相談の実施校が直接講師依頼を行うことにより、学校のニーズに直結した研修や支援を行う。発達サポート事業については、学校からの依頼に対して、相談内容を詳しく聞き取り専門家の適正なコーディネートを実施する。				

教育大綱・基本目標	2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します
施策の基本的方向	2 一人ひとりを大切にする教育の推進

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(9) 多様な学びの場を求める子どもや保護者の支援					
児童生徒の発達段階や発達課題及び家庭環境等に応じたきめ細かな教育相談活動の充実に努めるとともに、スクールカウンセラー等専門家や関係機関との連携を図ります。 また、児童生徒の課題に応じた体験活動や生活改善に向けた指導・支援プログラム等を開発・実施し、児童生徒の自尊感情を高める、多様な学びの場を求める子どもへの教育機会の確保を推進します。					
指 標 (進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
多様な学びの場を求める子どもが学校以外の場で学ぶことにより出席認定された数	13人	前年比増	30人	31人	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 教育相談事業	不登校や発達に関する悩みを持つ保護者や教職員に対して、現状の見立てや支援方法の提案を行う等、きめ細やかな相談を行う。	保護者や教職員の要望に応じ、アセスメントを通して児童生徒の発達課題、家庭環境等の情報を整理し、個に応じた教育相談活動の充実に努めた。(登校支援:792件、発達支援:1475件、カウンセリング:665件) 発達サポート事業を年間20回実施し、専門家を対象校延べ55校に派遣し、指導支援に関する助言を行った。		13,947	教育センター
① こどもサポートルームなないろ運営事業	こどもサポートルームなないろにおいてきめ細やかな支援や指導を行い、不登校状況にある児童生徒の社会性や自己肯定感を育み、自立へとつなげる。	なないろへの通室生は4月(18名)から徐々に増加し、3月には35名が利用し、年間延べ797回の指導を実施した。オンライン通室やアウトリーチ型支援、校外体験活動など、通室や活動内容の多様化を推進し、支援の充実に努めた。		21,522	教育センター
低評価となった理由 (D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底するとともに、相談業務や発達サポート事業や通室については、オンライン相談やオンライン通室、日程の変更等により臨機応変に対応した。 発達検査を生かした支援の提案を強化し、ケースに応じて相談後のフォローを実施した。				
課題・今後の取組	通室の多様化への対応と提案、アウトリーチ型の支援の推進を図る。また、将来の社会的自立をめざした他機関連携に努める。				

◇事務評価委員会所見等

事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等【教育センター】
子どもの不登校や発達等に悩んでいる保護者がどこに相談して良いかわからない場合もあると思うので、引き続き保護者などへの相談窓口の周知をお願いしたい。	ホームページやそれぞれの機関が作成する「相談窓口リーフレット」への掲載や、「こどもサポートルームなないろ」に関するパンフレットの各学校への配布をさらに進めます。あわせて、YouTubeでの紹介動画配信による周知を行います。
どのように子どもたちに安心感を与えることができるかがスタートだと思うので、オンラインの活用を含め、様々な方法を使いながら、今後ますます増加するであろう不登校児童生徒の支援をよろしく願いたい。	オンライン通室やアウトリーチ支援(各学校での別室対応へのサポート支援)等、現在行っている方法の拡充を進めつつ、さらに個の状況に応じた多様な通室支援のあり方について検討し、個別最適な不登校支援を行います。

教育大綱・基本目標	2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します
施策の基本的方向	2 一人ひとりを大切にする教育の推進

■その他事業

★(6) きめ細かな指導の充実と学習方法の工夫改善						
言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力の育成や「主体的・対話的で深い学び」の充実に向けた授業改善に取り組みます。ICT機器の活用を効果的に進め、創造的な問題発見・解決学習を充実させるとともに、個々に応じた学びの最適化により基礎学力や学習意欲の向上を図ります。						
主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課	
① 学ぶ力向上推進事業	標準学力検査を実施し、児童生徒の学力を全国基準で評価・分析することで、前学年までの学習状況をより客観的に把握する。また詳細な分析を活用して、指導者が自身の指導法について振り返ることにより、さらなる授業改善や充実を図る。	市内全小中学校、義務教育学校において、該当学年(小6、中3)児童生徒を対象に全国学力・学習状況調査を実施した。市教育センターでその結果を評価・分析し各校に返すことで、各校の指導法について振り返りを行った。	0	達成	教育指導課	
未達成となった理由 (未達成のみ記入)						
工夫・努力したこと	自校の評価・分析結果を、各校の校内研や職員研修等で全職員に周知するとともに、その結果を踏まえた指導方法の改善点、や対策を協議する場をもつようにした。					
課題・今後の取組	継続して「長浜スタイル」の周知を行い、校内研等で、指導方法等の改善、ICT機器の活用をさらに推進していく。					
主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課	
② 学校ICT活用事業	1人1台端末等のICT機器の活用促進、教職員のICT活用指導力の向上、ICTを効果的に活用した授業づくりを支援し、すべての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する。	教員の活用指導力の向上を図るため、次のとおり研修を実施した。 ・学校ICT支援員の配置 年間延べ559回の遠隔支援を実施した。 ・各種教員研修 28回 ・教育委員会からの学校訪問 各校年2回 ・学校ICT連絡協議会での実践交流 年4回	20,944	達成	教育改革推進室	
未達成となった理由 (未達成のみ記入)						
工夫・努力したこと	ICT支援員や連絡協議会を活用し、効果的なソフトの活用法や事例を共有できるように配慮し事業を行った。					
課題・今後の取組	教員間格差・学校間格差が表れてきたため、よりきめ細やかな研修支援体制の構築と、より効果的な活用が推進できるよう取組を進めていく。					
主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課	
③ 学校支援事業	各校の教育課題に応じて、特色ある教育活動を推進する。	各校の教育課題に応じて、次のとおり、配置し、特色ある教育活動を推進した。 ・総合育成支援員 78人(対象校28校) ・特別事情加配 4人(対象校4校) ・非常勤学習指導員 55人(対象校20校) ・スクール・サポート・スタッフ 25人(対象校19校)	103,164	達成	教育指導課	
未達成となった理由 (未達成のみ記入)						
工夫・努力したこと	学校現場の課題を聞き取るとともに、学校に訪問し実情を観察し、各校の課題を解決するために必要な配置を行った。					
課題・今後の取組	県費職員の加配配置状況を考慮し、次年度も学校の課題解決のために適切な配置を行っていく。					

◇事務評価委員会所見等

事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等【教育改革推進室】
児童生徒1人1台端末について、端末操作が苦手な子どももいると思う。その子どもたちへのフォローが心配であったが、個別に支援できる体制を準備されていると聞いて安心した。引き続き、こういった子どもたちへのフォローをお願いしたい。	子どもたちの方がICT機器への慣れがはやく、少しの支援ですぐに使えるようになります。子どもたち同士の学び合いを推進するとともに、ICT支援員などによる授業支援を行い、フォローを続けていきます。
クラウド型授業支援アプリやAI型教材等を、実際に授業参観で子どもたちがスムーズに使っているのを見て、とても良い事だと思った。ただし、AI型教材の宿題となるとこれまでと違い、子どもたちがしっかりと取り組んでいるかの確認が困難なように思う。学校によっては実施されているところもあると思うが、保護者がこういったAI型教材等に触れる機会があれば宿題の確認等もしやすいのではないかと思います。	保護者にとって、自分が活用していない環境での学びになっているため、これまでより子どもの学びが見えにくいと感じておられる方もおられます。これまでから行っている保護者向けiPad教室の開催や保護者向け動画の作成など、さらに工夫して保護者に直接情報を届ける機会を作っていきます。
先生方の間でも授業へのICTの活用に差があるとも聞いている。子どもたちも敏感に感じとっているようなので、引き続きICT活用に向けた先生方への支援をお願いしたい。	引き続き、校内研修やICT支援員による研修でスキルアップを図るとともに、学校訪問や連絡協議会などで取組を共有することでICT活用の差を縮めるよう努めます。

教育大綱・基本目標	2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します
施策の基本的方向	2 一人ひとりを大切にする教育の推進

■その他事業

★(10) 日本語指導が必要な児童生徒への支援

日本語指導が必要な児童生徒が多数在籍する学校では、日本語教室の開設、日本語指導担当教員の配置、母語通訳のできる指導員や支援員の巡回により、学習指導、生活指導、教育相談等を行い、「やさしい日本語」視点も取り入れながら学校生活を円滑に送れるよう支援します。					
主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
① 外国人児童生徒教育サポート事業	日本語指導が必要な外国籍または日本国籍児童生徒が基本的な日本語コミュニケーション能力を獲得し、基礎的・基本的な学力を身に付け、卒業後の進学・就職など将来への展望をもつことができるよう支援する。	サポート指導員(ポルトガル語)、サポート支援員(ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、中国語)および、学習指導員、初期指導員を派遣し、支援を行った。	23,927	達成	教育指導課
未達成となった理由 (未達成のみ記入)					
工夫・努力したこと	各サポート支援員および初期指導員との定期的な面談や学校訪問を実施し、学校現場での実態把握を行った。また、各校の日本語指導担当者連絡会を開催し、情報交換を行った。				
課題・今後の取組	海外から直接転入してくる児童生徒の増加に伴い、サポート支援員等の支援体制の強化・連携の充実に努める。また、外国籍児童生徒およびその保護者への指導・面談が増えているため、学校との連携強化を図る。				

教育大綱・基本目標	2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します
施策の基本的方向	3 確かな学力の育成

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(11) 各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実施					
子どもたちの姿や地域の現状の把握を基に、各教科等の教育目標を実現するために、相互の関係で捉え、教科横断的な視点で教育内容を組織的に配列していきます。また、「探究的な見方・考え方を働かせる」問題解決型の発展的学習等、教育内容の質の向上に向けて、教育課程の編成、実施、評価・改善を図る一連のPDCAサイクルを確立します。					
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
全国学力学習状況調査・国語の正答率と本市正答率との比較(全国学力・学習状況調査)	小 -2.8%	前年度比 +0.5%	小 -1.3%	小 -5.6%	D
	中 -2.8%		中 -1.3%	中 -1.0%	A
全国学力学習状況調査・算数(数学)の正答率と本市正答率との比較(全国学力・学習状況調査)	小 -1.6%	前年度比 +0.5%	小 -0.8%	小 -4.2%	D
	中 -0.8%		中 -0.3%	中 +0.6%	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 心輝く学校づくり推進事業	子どもたちに未来をたくましく生きる力を育成すべく、各学校にて重点的で工夫ある取組を実践し、一人ひとりの子どもの夢や希望を実現させる「心輝く学校づくり」を進める。	全小・中・義務教育学校35校が、校内授業研究会や文化芸術活動等、各校の実状に応じた取組を実施した。また、外部の団体や社会人、OB、地域の方々を講師として招き、地域に根差した特色ある行事を実施した。		19,005	教育指導課
② 【再掲】学ぶ力向上推進事業	標準学力検査を実施し、児童生徒の学力を全国基準で評価・分析することで、前学年までの学習状況をより客観的に把握する。また詳細な分析を活用して、指導者が自身の指導法について振り返ることにより、さらなる授業改善や充実を図る。	市内全小中学校、義務教育学校において、該当学年(小6、中3)児童生徒を対象に全国学力・学習状況調査を実施した。市教育センターでその結果を評価・分析し各校に返すことで、各校の指導法について振り返りを行った。		0	教育指導課
低評価となった理由(D評価のみ記入)	小学校・義務教育学校[前期課程]での全国学力学習状況調査・国語と算数の正答率と本市正答率の差が拡大したため。				
工夫・努力したこと	感染症拡大防止の観点から、一部の事業及びそれに関わる講師招聘を取り止めることとなったが、可能な限り各校のねらいや課題に応じて特色ある教育活動を実施した。前年度の全国学力学習状況調査の問題を教員が解く機会を持ち、「今、求められている学力」について研修し、指導方法の改善を図り、指導の重点を共通理解した。				
課題・今後の取組	コロナ禍後のより良い学校の在り方を模索する中で、特色ある教育活動を推進し、体験活動を通して認知能力と非認知能力の両面を育成する学校づくりを進めていく。「誰一人取り残さない長浜の教育の実現」のため、市内全小中学校で授業を担当する教員への「長浜スタイル(子どもが自ら学ぼうとする授業)」の共通認識・共通実践を図る。全国学力学習状況調査に向けて、小学校では、問題用紙と回答用紙が別々になっているテスト形式に慣れていないため、同様の形式のテストを経験させ、児童の持つ力が十分に発揮された調査となるようにする。				

教育大綱・基本目標	2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します
施策の基本的方向	3 確かな学力の育成

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(13) 英語教育の推進						
今後ますます進展するグローバル化に対応できる資質や生き方を身につけた児童生徒の育成のため、小学校から中学校までの9年間の英語教育を推進します。小学校学級担任及び中学校英語科教員のより一層の指導力向上に努め、互いの考えや気持ちを伝えあう対話的な言語活動の充実等の授業改善に取り組みます。						
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価	
CEFR(セファール)A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる中学3年生生徒の割合	38.5%	50.0%	41.0%	45.9%	A	
主な事業又は取組	目的	成果(実績)			決算(千円)	担当課
① 英語教育推進事業	小学校から中学校まで、また、義務教育学校での9年間を通して、特色ある英語教育を推進し、児童生徒の国際コミュニケーション能力の基礎を培うとともに、豊かな国際性を育む。	小中連携による情報交換や授業公開を通して、9年間の一貫した豊かな言語活動を展開した。学級担任と日本人英語講師(JTE)/外国人英語講師(ALT)とのチーム・ティーチングを行った。英語指導力向上のための教職員研修を年5回開催した。			65,971	教育指導課
低評価となった理由(D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと	ALTやJTEの配置により、英語学習の初期段階に「生きた英語」に触れることで、聞く力やコミュニケーションをとろうとする態度の育成につながった。また、英語教育に係る懇話会を定期的に開催し、大学教授等の有識者から助言を受けながら小中連携の充実を図った。					
課題・今後の取組	全小・中・義務教育学校へのALTの配置、高学年へのJTEの配置、小・中・義務教育学校教職員対象の研修の実施により、英語授業力の向上、言語活動を充実させた授業改善を図っていく。あわせて、小学校英語と中学校英語のスムーズな接続のため、各中学校区における取組を充実させる。					

★(15) 教育の情報化の推進						
情報化やグローバル化等の急激な社会的変化の中で、子どもたちが未来の創り手となるために必要な資質・能力を身につけられるよう、学校ICT環境整備と教員のICT活用指導力の向上を図ります。また、校務の情報化を推進し、教員が児童生徒に向き合う時間を増やし、教育活動の質の向上をめざします。						
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価	
授業にICTを活用して「資料・意見等の提示」、「学習用ソフトウェアを活用した協働的な学習」ができることと答えた教員の割合(学校における教育の情報化の実態等に関する調査)	53.7%	100.0%	75.0%	79.9%	A	
主な事業又は取組	目的	成果(実績)			決算(千円)	担当課
① 学校ICT環境整備事業	児童生徒の学習への関心、意欲、理解を高めるために必要なICT環境や、学校・学級事務の負担を軽減することにより教員が児童生徒の指導に専念することができるICT環境の整備を推進する。	個別最適な学びと協働的な学びの実現のため、次のとおり実施した。 ・授業支援ソフト「ロイロノート・スクール」の導入・活用による授業改善 ・AI型ドリルソフトの導入、拡大による個別最適な学びの推進			50,878	教育改革推進室
② 【再掲】学校ICT活用事業	1人1台端末等のICT機器の活用促進、教職員のICT活用指導力の向上、ICTを効果的に活用した授業づくりを支援し、すべての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する。	教員の活用指導力の向上を図るため、次のとおり研修を実施した。 ・学校ICT支援員の配置 年間延べ559回の遠隔支援を実施した。 ・各種教員研修 28回 ・教育委員会からの学校訪問 各校年2回 ・学校ICT連絡協議会での実践交流 年4回			20,944	教育改革推進室
低評価となった理由(D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと	1人1台端末の活用が広がり、効果的な活用が進められるよう事業を推進した。効果的なソフトの活用法や事例を共有できるよう、支援員の活用や協議会での伝達などを行った。					
課題・今後の取組	教員間格差・学校間格差が表れてきたため、よりきめ細やかな研修支援体制の構築と、より効果的な活用が推進できるよう取組を進めていく。					

教育大綱・基本目標	2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します
施策の基本的方向	3 確かな学力の育成

■その他事業

★(12) 言葉の力の育成					
<p>言語に関する能力は全ての教科の基本であることから、思考力・判断力・表現力等を育む言語活動(読む力、書く力、聴く力、話す力)の充実を図り、自分の考えや意見を表現する活動を取り入れ、正しい日本語の書き方や論理的な思考を育みます。また、学校司書の配置や学校・園の蔵書整備等を進める等の学校図書館を活用した取組及び図書館との連携により、言葉の力の育成を図ります。子どもたちが幼児期から読書習慣を身に付けることができるように、読書環境の整備を進めます。</p>					
主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
① 学校図書館教育の推進	学校司書を配置し、司書教諭等と連携協力しながら学校図書館の整備を進める。学校司書の資質・能力の向上を図る。	全小・中・義務教育学校に学校司書を配置した。また、学校司書連絡協議会を1回開催し、実践交流や情報共有等を行い、学校司書の資質・能力の向上を図った。	13,029	達成	教育指導課
未達成となった理由(未達成のみ記入)					
工夫・努力したこと	コロナ感染症拡大防止の観点から、学校司書連絡協議会を年1回の開催とした。協議会において各校での実践交流を行うことで、各校の学校図書館運営を見直す機会とした。改善案やアイデア等を取りまとめ、フィードバックを行った。				
課題・今後の取組	学校司書のスキルアップが必要なため、実技研修等を取り入れていく。また、希望する学校司書が県主催の司書教諭等の研修会に、公費で参加できるように仕組みを整えていく。				

★(14) 理科教育の推進					
<p>高い専門的な知的資源を有する長浜バイオ大学と連携し、実験観察等の体験的学習活動を通して、児童生徒の自然科学への興味・関心・知的欲求を高めます。教員が子どもたちに理科の面白さをより実感させるための教材研究を進め、指導の一層の向上と充実を図り、感性豊かな探究心や問題解決能力、科学的な見方や考え方を育成します。</p>					
主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
① 「長浜学びの実験室」実施事業	児童生徒の自然科学への興味・関心を高め、探求心と問題解決能力を育成する。小・中・義務教育学校における理科教育指導の一層の向上と充実を図る。	長浜バイオ大学「長浜学びの実験室」において、大学教員のもと、68講座を実施し、児童生徒の自然科学への興味・関心を高めることができた。	2,148	達成	教育指導課
未達成となった理由(未達成のみ記入)					
工夫・努力したこと	実験講座が開校できるように、新型コロナウイルス感染拡大防止対策(昼食をとらない、手洗い手指消毒の声かけ等)を徹底した。小学校教員の理科指導力向上を図るため、教員向け理科教育研修会を実施した。				
課題・今後の取組	事業立ち上げ時に購入した実験器具(顕微鏡等)の買い替えについて検討する。				
主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
② 夏休み親子科学実験講座事業	児童の自然科学への興味・関心や知的好奇心を高める。	実験講座を3日間開催し、児童117名、保護者76名、計193名の参加があり、児童の自然科学への興味・関心や知的好奇心を高めることができた。	254	達成	教育指導課
未達成となった理由(未達成のみ記入)					
工夫・努力したこと	低学年の児童も楽しめる講座内容を工夫した。安心して参加してもらえるよう、新型コロナウイルス感染症対策(換気・パーティションの設置等)を徹底した。				
課題・今後の取組	子どもたちが理科の面白さを実感できるよう、さらに講座内容を工夫する。				

教育大綱・基本目標	2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します
施策の基本的方向	4 豊かな心の育成

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(16) キャリア教育の推進による自立心の涵養						
社会的自立・職業的自立に向けて、児童生徒一人ひとりのキャリア形成を支援するために教科・科目、総合的な学習の時間、特別活動等をはじめ教育活動全体を通じて発達段階に応じた指導を組織的・系統的に行います。また、勤労観・職業観を育成するため、職場見学や職場体験等の体験活動や進路指導の充実に努めます。						
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価	
「職場体験で自分の良さや適性等を発見したり、確認したりできた」と答えた割合(中学生チャレンジウィーク事後アンケート)	89.0%	95.0%	90.5%	100.0%	A	
主な事業又は取組	目的	成果(実績)			決算(千円)	担当課
① キャリア教育推進事業	自分の進路を選択できる力や将来社会人として自立できる力を育てる。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ほとんどの学校で職場での体験は中止したが、講師を招いて勤労についての講話を聴いたり、マナー講座等を実施したりした。			377	教育指導課
② 発達段階に応じたキャリア教育の推進	自立して生きていくために必要な能力や態度を育成する。	小学校及び義務教育学校(前期課程)の児童の各発達段階に応じた職場訪問や社会見学等を実施した。			0	教育指導課
低評価となった理由(D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと	講師を招いて勤労の意義について講話を聴いたり、マナー講座を行ったりした。また、体育館にブースを設置し、仕事について講話と一部体験を行ったり、事業所に直接訪問したりして、話を聞いた。 小学校では感染対策を取ったうえで、滞在時間や活動内容を変えながら校外学習を実施した。					
課題・今後の取組	実習の事前指導段階で、勤労の意義について考えさせる必要がある。また、実習を通して新たな学びを得るためには、社会の厳しさをしっかり理解させ、どのような心構えで取り組ませるかについて、後のキャリア育成につなげられるように進めていく。					

◇事務評価委員会所見等

事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等【教育指導課】
職場体験は、子どもたちが実際に職場へ行き、職場の人と直接会うという事が、人のかかわりという点でも大きな事だと思う。また、子どもたちが自分で体験する事で、働く厳しさであるとか、仕事へのあこがれなどを持つのではないかなと思うので、ぜひ子どもたちが実際に職場で体験ができるようにしていただきたい。	令和5年度については、職場体験を市内12校中10校が、1学期中に実施済みであり、残りの2校も、2学期中に実施予定です。 新型コロナウイルス感染症の影響で、食品関係や医療関係等の事業所に受け入れを断られることもありましたが、各校が新規事業所を開拓するなどして、職場体験が実施できるように努めています。
子どもたちがなりたい職業等に向かって目標が持てるようなキャリア教育ができれば、もっとよくなるのではないかなと思う。なかなか難しいとは思いますが、現場の教師もそういった思いを持ちながら、子どもたちに指導ができれば、さらに良いと思うので、ぜひ教育委員会も現場を支援していただきたい。	キャリアパスポートを活用しながら、将来の夢を設定したり、自分を見つめる機会を持ったりしています。また、職業人講話やマナー講習、職場見学など、社会で働く大人に触れる機会を持っています。 本市では、「誰一人取り残さない長浜の教育の実現」の中で夢や目標に向かって努力する子どもの育成を掲げており、今後も、子どもたちがなりたい職業等に向かって目標が持てるようなキャリア教育にさらに力を入れていきます。

教育大綱・基本目標	2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します
施策の基本的方向	4 豊かな心の育成

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(17) 道徳教育・人権教育の推進					
道徳教育の充実を図り、学校の教育活動全体を通して他人を思いやる温かい心を育むとともに、わがまち・長浜を愛する子どもの育成を図ります。さらに地域と連携し、学んだことを生かして行動できる道徳的実践力を高めます。また、あらゆる教育活動を通じて子どもたちの自尊感情を高めるとともに、人権についての正しい理解と認識を培い、人権を尊重する実践的な態度の育成に努めます。					
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
「自分には、よいところがある」と答えた割合(全国学力・学習状況調査)	小 81.6%	小 87.0%	小 82.7%	小 77.8%	A
	中 76.2%	中 82.0%	中 78.5%	中 75.9%	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 人権教育の推進	子どもの自尊感情を高め、確かな人権感覚を育成する。	市人権教育研究会の講演会をオンライン開催し、分科会を集合型で開催し、市内全校ほぼ全ての教職員が参加することで人権教育の実践力を養った。また、3推進学区で公開授業(長浜東:2回、虎姫:2回、木之本:5回)や研修会(長浜市:4回、虎姫:4回、木之本:2回)を実施した。		448	教育指導課
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	全体会をオンライン開催にしたことで、人数制限していた研究会に、多くの教職員が参加できるようになった。また、新型コロナウイルスの情勢を見つつ、授業参観や研修を行い、各校園の取組や教育上の諸課題の共通理解を図った。				
課題・今後の取組	各推進学区において、生活や学力の状況を把握するための調査(アンケート)を行い、子どもの自尊感情の高まりを分析して、今後に活かしていく。 市人権教育研究会にて、学んだことを日々の教育実践に活かしていく。				

★(18) 地域学習や文化芸術活動等の体験活動を通じた豊かな感性の醸成					
本市の豊かな自然や歴史、伝統文化等、様々な地域資源を生かした教育活動や体験活動を推進し、豊かな心や感性を培うとともに、郷土に対する誇りと郷土愛を育みます。					
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
「今住んでいる地域の行事に参加している」と答えた割合(全国学力・学習状況調査)	小 83.3%	小 88.0%	小 85.2%	小 72.2%	B
	中 67.5%	中 72.0%	中 69.3%	中 56.8%	B
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 地域学習や伝統文化等の体験活動の充実	子どもの豊かな心や感性を培い、郷土に対する誇りと郷土愛を育む。	小学校、中学校ともに、「今住んでいる地域の行事に参加している」と答えた児童の割合が下がったが、各地域の特色を生かし、市内27校で伝統文化体験活動等を行った。		0	教育指導課
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	新型コロナウイルスの影響があったが、感染対策を行ったうえで、時間を短縮したり、活動内容を変更したりすることで様々な体験活動を実施することができた。地域の伝統文化学習を積極的に学校に取り入れる学校があった。				
課題・今後の取組	多様な体験ができるよう、学校HPなどを通して保護者や地域住民に対して広く周知していく。				

教育大綱・基本目標	2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します
施策の基本的方向	4 豊かな心の育成

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(19) グローバルな視点での教育活動の推進
 国際感覚豊かな児童生徒の育成を図るため、多文化共生の観点から外国や日本の伝統文化に対する理解を深めます。また、環境問題について、地球温暖化やオゾン層破壊、海洋汚染等のグローバルな問題をはじめとして、あらゆる地域の環境保全に関心をもつとともに、SDGsの視点も取り入れた行動がとれるよう、地域の特色を生かした体験的な環境教育を推進します。

指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい」と答えた割合(全国学力・学習状況調査)	小 66.9%	小 72.0%	-※	-※	-
	中 58.7%	中 64.0%	-※	-※	-

※全国学力・学習状況調査における質問項目がなくなったため。

主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
① 英語キャンプの実施	児童生徒の英語による発信力を高める。	市内児童生徒28名の参加のもと、ALTとの英語による活動を通して、英語発信力の向上を図った。	503	達成	教育指導課
未達成となった理由 (未達成のみ記入)					
工夫・努力したこと	英語に関する既習内容やタブレット端末の活用などで、日頃の学習成果を試す機会とした。特に、学習のまとめとして、フィリピンとリアルタイムで繋ぎ、長浜市に関するプレゼンテーション活動を行った。				
課題・今後の取組	将来に生かせる英語力の育成のため、さらなるオンライン活用やより実践的な活動展開を構築する。令和5年度以降については、現状の事業内容を見直し、内容の変更を計画している。				

主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
② 環境教育の推進	環境保全の体験活動を通して、環境に対する理解と関心を高め、持続可能な社会の構築に向けて主体的に取り組める子どもを育成する。	各校で「ごみゼロの日」「びわ湖の日」「県下一斉清掃の日」等の環境保全についての体験活動および学習活動を行った。	0	達成	教育指導課
未達成となった理由 (未達成のみ記入)					
工夫・努力したこと	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のうえ、全小中義務教育学校において、校地の環境整備や通学路の清掃等、身近な環境保全活動に取り組んだり、教科学習にて地球規模からの環境問題について学習したりした。				
課題・今後の取組	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に配慮しながら、「びわ湖の日」等を利用した、校地の環境整備、清掃ウォーキング、通学路の清掃等、身近な環境保全活動への取組や、教科学習において地球規模からの環境問題についての学習等を引き続き行っていく。				

教育大綱・基本目標	2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します
施策の基本的方向	4 豊かな心の育成

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(20) 情報モラル教育の推進					
<p>児童生徒の携帯電話やタブレット等の利用の拡大、使用方法の変化に伴う、SNS等を通じたトラブルを防ぐため、学校・家庭・地域社会が一体となった取組を進められるよう、学校では、企業等に協力を求めながら情報技術やサービス等の最新の情報の入手に努め、児童生徒、家庭に対して情報機器の正しい使い方の知識を身に付けるための啓発を進めます。健康を害するような行動について医療の面からの啓発活動も学習活動に取り入れながら情報モラルを醸成する教育を推進します。</p>					
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を身につけさせるための研修会や授業を行った学校の割合	—	小中学校ともに 100.0%	小中学校ともに 100.0%	小 100.0% 中 100.0%	A A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 情報モラル教育の推進	情報機器やインターネットの利用によるトラブルの被害者にも加害者にもならない児童生徒を育成する。	各校が独自に実施しているネット活用教室などの予定や実施状況を確認し、市内の児童生徒の情報端末の所持状況や学校でのSNS等を介するトラブルの発生状況、オンラインゲームに関するトラブルなどについて、各校への情報提供を行った。		0	教育指導課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	長期休業前には警察とも連携し、児童生徒が犯罪に巻き込まれたり、知らずに触法となる行為に及ぶことがないように、各校を通じて児童生徒や保護者に対して啓発を行った。				
課題・今後の取組	オンラインゲームなどSNSの普及によるトラブルが増えていることについて、保護者や児童生徒に、具体的な事例を交えながら伝えるとともに、ネット使用のルールやマナーについても適切に指導していく。				

◇事務評価委員会所見等

事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等【教育指導課】
WHOはゲームのやりすぎで日常生活に支障をきたす状態を依存症であるとし、ゲーム障害という病気として位置付けている。子どもたちが依存症になる前に、何らかの対策を取っていく必要があると考える。これらのことに対する具体的な取り組みが書かれていないので、ぜひ具体的な対策を立てていただきたい。	具体的な取組としては、授業の中でパソコンやゲーム等の脳や目への影響について学習し、使用する際のルールづくり等を行っています。また、PTAの研修において、保護者に対しても啓発し、家庭でのノーテレビデーやノーゲームデーの取組やルール作りを促しています。長浜市PTA連絡協議会でも話題として取り上げ、保護者を巻き込んだ具体的な対策を行っていききたいと思います。

教育大綱・基本目標	2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します
施策の基本的方向	5 健やかな体の育成

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(21) 体力の向上と健康の保持増進					
<p>子どもたちの体力向上を図るために、日々の体育科学習の授業改善を推進します。また、運動に対する愛好的態度の向上をめざし、学校での休み時間等に進んで運動ができるよう取り組みます。</p> <p>中学校の部活動では、専門性をもった指導員の配置や支援員の派遣を行い、生徒の競技力等の向上を図ります。</p> <p>さらに、健全な生活習慣を身に付けるために、健康診断や調査に基づき、一人ひとりの実態に応じた指導・支援を行うとともに、「早寝・早起き・朝ごはん」運動等の取組を推進します。</p>					
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
新体力テストの体力合計得点 ・小学5年生	男子:50.99点	男女ともに 55.00点	男子:51.78点	男子:50.28点	A
	女子:52.81点		女子:52.77点	女子:51.59点	A
新体力テストの体力合計得点 ・中学2年生	男子:41.86点	男子:43.00点	男子:42.01点	男子:39.27点	A
	女子:48.32点	女子:50.00点	女子:48.85点	女子:44.54点	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① マイ体力アップ事業	子どもたちの体力向上と運動習慣の確立を図る。	対象者960人中 「Let's challenge!」カード5枚分が達成できた児童が82人(達成率8.5%)おり、子どもたちの体力向上と運動習慣の確立につなげた。		0	すこやか教育推進課
② 児童生徒健康診断の実施	児童生徒の健康を管理する。	次のとおり、健康診断を実施し、児童生徒の健康管理に努めた。 ※数字は受検者数()内は対象者数 ①心電図検査・小学校1年生945名(948名)、4年生1,001名(1,004名)、中学校1年生(7年生)1,020名(1,030名)受検 ②尿検査・小学生6,111名(6,182名)、中学生3,117名(3,187名)名が受検 ③結核健康診断・計21名に実施		①4,179 ②1,881 ③50	すこやか教育推進課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	手軽に継続して取り組み、新体力テストの結果において長浜市の子どもたちに課題が見られる「跳躍力」「筋力」を向上させるために、縄跳びの跳んだ回数で「びわこ一周」を目指すことに取り組んだ。 心電図検査では、対象者全員が受検できるよう、近隣校を受検会場としたり、予備日を設けたりするなどした。				
課題・今後の取組	目標達成基準が厳しかったため、目標を達成した児童が少なかった。今後は、達成基準を緩和し、1日の回数制限を撤廃することで達成者を増やしていく。 心電図検査、尿検査において、全員実施となるまでもう一步であった。今後も小中義務教育学校には、対象者全員が受検できるよう、近隣校での受検や回収が可能であることの声掛けを継続する。				

◇事務評価委員会所見等

事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等【すこやか教育推進課】
計画策定時から実績値が下がっているが、令和7年度の目標達成に向けて検討が必要ではないか。	体力テストの得点低下については、国、県ともに低下傾向にあることから、コロナ禍による運動時間の減少や生活習慣が要因のひとつと推察しているところ。今後、アフターコロナ、ウィズコロナにおいて、効果的なマイ体力アップ事業の実施により、県が設定した目標の達成に向けた取り組みを進めていきます。

教育大綱・基本目標	2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します
施策の基本的方向	5 健やかな体の育成

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(22) 食育の推進					
<p>学校給食を通じて、子どもたちが「食」に関心をもち、栄養バランスや食の安全性等について正しい知識を身に付け、自分自身の健全な食生活について考えることができる力を養います。また、食文化や食に対する考え方が多様化する中で、様々な食材に関心をもちつつことができるよう、学校・園、家庭、地域が連携しながら食育の推進に取り組みます。 食物アレルギーに関しても、正しい知識や理解をもつことができるような取組を進めます。</p>					
指 標 (進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
バランスのとれた食事をするのは大切だと思っている児童・生徒の割合 (食育アンケート)	小5 98.0%	小中学校ともに 100.0%	小中学校ともに 100.0%	小5 98.4%	A
	中2 99.1%			中2 98.5%	A
朝食を毎日食べる児童・生徒の割合 (食育アンケート)	小5 90.6%	小5 93.0%	小5 91.0%	小5 89.2%	A
	中2 86.1%	中2 90.0%	中2 88.0%	中2 82.3%	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 安全・安心な学校給食の提供	徹底した衛生管理による施設運営のもと、安全で栄養バランスのとれた学校給食を提供する。また、学校給食費公会計推進により、透明性・公平性の向上とともに、安定した給食提供を図る。	衛生管理の徹底と施設・設備の保守点検・修繕を行い、給食の中止や配送の遅延なく、安全・安心な学校給食の提供を行った。物価高騰に伴う給食賄材材料費の高騰については、国の交付金を活用し、保護者への増額負担を求めず、栄養バランスの取れた給食の提供を行った。(給食回数195回)		972,178(うち公会計507,198)	すこやか教育推進課
② 食物アレルギー事故防止研修	給食時の食物アレルギー対応の現状と課題を共有し、専門医からの指導を受けることでアレルギー事故の未然防止を図る。	アレルギー専門医から、「園・学校給食における食物アレルギーの事故防止および救急対応について」と題し、保幼認定・小中義務教育学校及び学校給食センター職員に対し、アレルギー事故の未然防止のための講義を受けた。当日は、職員が受講しやすいよう、オンラインでの研修及び参集型での研修を行った。(当日参加者 69名)		0	すこやか教育推進課
③ 学校給食を通じた食育の推進	子どもたちが健全な食生活を自ら営むことができる知識及び態度を養えるようにする。	全幼稚園・小学校の給食時間を活用して、小学校262回、幼稚園67回の指導を行った。小学校5年生には全クラス1回、朝ごはんについて指導を行った。また、献立表、食育の日の資料、ランチメッセージにより食育に関する情報提供を行った。		0	すこやか教育推進課
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	昨年度に引きつづき、新型コロナウイルスで学級閉鎖となった場合は、対象学校の献立の一部変更(再開後に食材を使用)やフードバンクを活用して、食材の有効活用による食品ロスに努めた。				
課題・今後の取組	バランスの取れた食事をすることや朝食を食べることの大切さを伝えるため、栄養教諭等と学校(園)や保護者との連携した取組を継続して行う。 学校給食について知ってもらうため、センター見学や学校園数や一般開放来所者、試食者の増加に向けて取り組む。				

◇事務評価委員会所見等

事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等【すこやか教育推進課】
計画策定時から実績値が下がっているが、様々な家庭環境等で育っている子どもたちがいる中で、令和7年度の目標値までの改善はなかなか難しいのではないかと。	限りなく目標値に近づけるため、栄養教諭を中心とした食育指導をはじめ、様々な機会を通じ、朝食欠食率の減少に向けた取り組みを根気よく進めていきます。
子どもたちにとって、学校給食はとても大切なものだと思う。中学校に上がると、給食を食べる時間が短いのか、給食を残してしまうという声を聞いたことがあり、学校給食における残食がどうなっているのか気になる。メニューによっては量が足りない子や多い子などと思うが、クラスの中で個別に配慮はできないのかと思う。	残食の削減は重要な課題であると認識しています。食育を通して、子どもたちに「給食の重要性」と「食品ロスの問題点」等を伝えることで、根本的な意識改革に取り組んでいきます。また、誤配食によるアレルギー事故の防止の観点からも、一定のルールのもと引き続き適正な配食に努めていきます。
他市の例であるが、家庭的にも苦しくはなく、給食費を払えるのに長期間払っていなかったという方がいたようである。もしこのような事例が起こった場合は、子どもたちにも悪影響を与えらると思うので、公平性の面からもしっかりと対応をして欲しい。	未納者に対しては、これまで同様に、早期の督促や催告等を実施するほか、的確に経済状況を把握しながら、適正な債権回収に取り組んでいきます。

基本目標3

学校・家庭・地域のつながりを深め、
地域全体の教育力の向上をめざします

事業No.に★がついている事業は外部評価の対象です。

教育大綱・基本目標	3 学校・家庭・地域のつながりを深め、地域全体の教育力の向上をめざします
施策の基本的方向	6 学校・家庭・地域による教育環境づくり

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(23)「長浜子どものちかい」「長浜子育て憲章」の推進					
長浜の未来を切り拓き、次代を担う子どもたちを育て導くために、「めざす子ども像」を掲げ、「長浜子どものちかい」「長浜子育て憲章」を子育て・教育の基盤に据えて、学校・家庭・地域及び関係機関、団体等の連携による教育環境づくりの取組を推進します。					
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
「長浜子どものちかい」「長浜子育て憲章」の保護者・地域・各団体への周知、啓発回数	91回	100回	95回	90回	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 「長浜子どものちかい・長浜子育て憲章」推進事業	「長浜子どものちかい・長浜子育て憲章」が子育て・教育の基盤として定着するよう、各校園、保護者、地域、関係機関・団体と連携して周知・啓発に継続して取り組む。	「長浜子どものちかい」「長浜子育て憲章」が子育て・教育の基盤として定着するよう、学校や園、地域及び団体等への周知・啓発を行った。 また、平成29年度から実施している絵手紙作品募集では、ホームページや広報、学校等を通じて1,972点の応募があり、入賞作品の展示やホームページ等への掲載により、広く理念の浸透と普及を図ることができた。		116	教育改革推進室
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	様々な媒体を活用し周知・啓発に継続して取り組むことにより、保護者や地域への普及に努めた。				
課題・今後の取組	地域住民への浸透や普及が課題であり、より効果的な取組や機会を探り取組を継続していく。				

◇事務評価委員会所見等

事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等【教育改革推進室】
啓発回数というより、啓発する内容が重要だと思うので、大変かと思うが引き続き事業の推進をお願いしたい。	「長浜子どものちかい」「長浜子育て憲章」が浸透するよう、啓発手法を工夫し引き続き事業を推進します。

★(24) 学校運営協議会の推進					
「地域とともにある学校」の考えのもと、各校が学校運営協議会と連携を図りながら、保護者や地域の人の参画を得、その意見が反映される学校運営を進めます。また、学校・家庭・地域社会が一体となって、よりよい教育の実現に向けて取り組み、地域の創意工夫を生かした特色ある学校づくりを進めます。					
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
地域とともに進めるよりよい学校づくり満足度(長浜市民満足度調査)	3.39点	3.50点	3.40点	3.12点	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 学校運営協議会の推進	各校園の学校運営協議会の取組について情報交換や交流を深め、活動充実を図る。	長浜市学校運営協議会委員等代表者を集合形式で開催し、33校園より参加いただいた。また、各学校の特色ある取組について冊子にまとめ、各協議会に配布した。		2,070	教育指導課
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念される中であったが、集合型の研修会にしたことで先進地の事例に触れることができた。また、各校の実践について、交流を行うことができた。				
課題・今後の取組	CSIに取り組み10年になるので、活動の検証が必要。今年度は地域学校共同本部にも取り組んでいく。委員や教職員を対象とする研修会を年に数回実施し、各校園の取組の交流ができるようにしていく。				

教育大綱:基本目標	3 学校・家庭・地域のつながりを深め、地域全体の教育力の向上をめざします
施策の基本的方向	6 学校・家庭・地域による教育環境づくり

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(26) 児童虐待の早期発見と支援の充実						
<p>学校・家庭・地域社会が連携・協力することにより、子どもの人権の尊重と安全・安心な環境を作ります。 児童虐待防止のための相談窓口や啓発活動を進めるとともに、児童虐待の早期発見、早期対応を図るため、関係機関のネットワーク強化を図ります。 各種相談体制や訪問事業等の子育て支援の体制整備を図ります。</p>						
指 標(進捗管理目標)		計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
児童虐待に関する啓発回数		9回	15回	13回	10回	B
主な事業又は取組	目的	成果(実績)			決算(千円)	担当課
① 子ども虐待DV防止支援事業	児童に対する虐待の禁止、児童虐待の予防および早期発見に関する施策を推進し、児童の権利利益擁護に資する。	市内量販店等によるオレンジリボンポスターの展示啓発や市内6図書館と協働した啓発活動を実施した。			2,041	こども家庭支援課
低評価となった理由(D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと	関係機関への啓発ポスター配布やHPと子育て応援アプリ「ながまるキッズ！」や広報をはじめ、雨量情報掲示板による情報発信を行った。					
課題・今後の取組	情報周知の充実の為、さまざまな情報ツールを使い、児童虐待防止の啓発を行うとともに強化月間だけでなく、年間を通じて啓発を行っていく。					

教育大綱・基本目標	3 学校・家庭・地域のつながりを深め、地域全体の教育力の向上をめざします
施策の基本的方向	7 子育て支援体制の充実

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(27) 保育サービスの充実					
社会情勢や子育てに対する意識の変化等による保育ニーズが多様化している中、全ての就学前の子どもに、その発達や家庭状況に応じた教育・保育を提供するため、待機児童の解消に繋げるとともに、子どもや子育て家庭に必要かつ良質なサービスの提供及び教育の充実に向けた、環境整備を図ります。					
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
保育所・認定こども園(長時部)の待機児童数	35人	0人	13人	5人	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 子育て支援事業	園児及び地域の未就園児とその保護者を対象に、保護者同士の交流の場を提供したり子育て相談を行い、子育てへの安心感や親としての喜びや充実感を感じてもらう。	公立園20園に子育て専門相談員を配置し、園児及び地域の未就園児の保護者に対して相談事業を実施した。 公立園7園で未就園児広場を実施した。 公立園2園で園開放事業を実施した。		5,542	幼児課
② 保育人材確保対策事業	保育の担い手となる保育士等の人材を確保することにより、待機児童の解消につなげる。	保育士確保対策関連補助金の支給を行った。 ・長浜市保育士等奨学金返還支援金 22人 ・長浜市保育士等宿舍居住支援事業補助金 13人 ・長浜市保育士等の再就職定着応援金 4人		9,211	幼児課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	地域における子育て支援の充実に向けて、こども家庭支援課とも協議し、連携できる体制づくりを行った。受験案内のために各大学へ訪問した際に、あわせて補助金制度の説明を行った。また、県内で実施される就職フェアに参加し、人材確保に努めた。				
課題・今後の取組	地域に根ざした子育て支援が行えるよう、全園での未就園児広場開催をすすめていく。 人材確保対策関連補助金の実施期限があり、延長に向けて財政当局との協議が必要である。				

◇事務評価委員会所見等

事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等【幼児課】
保護者の方から、入園に向けて、実際に園を見に行きたいが、コロナ禍で園開放の機会が乏しいため、早く園開放を再開して欲しいという声をよく聞いた。未就園児のための事業で、さらに保育士の確保が必要になるかと思うが、こういった親子を園に繋ぐような場所も必要だと思うので、保育士がもっとたくさん増えてくれれば良いと思う。	コロナ禍の制約もなくなり、令和5年度からは公立全園で未就園児広場を開催しています。身近な園で未就園児親子が集い、つながりができるような機会となるよう継続していきます。また、保育人材については奨学金返還支援、居住支援、再就職応援金の各補助制度の予算確保や大学訪問の強化等により、一層の確保に努めてまいります。

教育大綱・基本目標	3 学校・家庭・地域のつながりを深め、地域全体の教育力の向上をめざします
施策の基本的方向	7 子育て支援体制の充実

■指標(進捗管理目標)対象事業

(28) ひとり親家庭への支援						
母子・父子自立支援員を子育て支援課に配置し、生活全般の相談を行います。また、同じ悩みを抱える人の交流や相談の場について紹介します。						
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価	
ひとり親家庭の相談件数	2,122件	2,500件	2,300件	2,321件	A	
主な事業又は取組	目的	成果(実績)			決算(千円)	担当課
① ひとり親家庭支援事業	ひとり親家庭の生活の安定と向上のための支援を行う。	相談者の状況に寄り添い、必要な支援を案内することで、ひとり親家庭の生活の安定に努めた。			180	こども家庭支援課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと	配慮が必要である家庭を把握し、定期的に電話、文書連絡を行い必要な支援機関へつないだ。					
課題・今後の取組	離婚前から離婚後までの支援を行い、個人の状況を十分に把握し適切な支援につなげることで、ひとり親家庭の生活および精神的安定に努める。					

(29) 放課後児童クラブの充実						
放課後児童クラブが、保護者の仕事と子育ての両立を支援し、子どもたちが安全で楽しく過ごせる場所となるよう、学校、地域、関係機関が連携し増加するニーズに応じた施設を確保するとともに、運営の充実を図ります。						
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価	
放課後児童クラブの待機児童数	214人	0人	0人	0人	A	
主な事業又は取組	目的	成果(実績)			決算(千円)	担当課
① 放課後児童クラブ運営事業	就労等により保護者が昼間家庭にいない小学生を対象に、放課後に適切な遊びや生活の場を提供し、児童の健全育成を図る。	利用者の増加が見込まれる小学校区において放課後児童クラブ専用施設(プレハブ)を継続設置し、待機児童の発生を抑制した。			509,265	こども家庭支援課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと	民間放課後児童クラブが安定して継続運営できるよう、各種補助や支援施策について、また、その活用手法について等、連絡協議会などを通じて情報共有を図った。					
課題・今後の取組	公設の放課後児童クラブにおける支援員不足の解消に向けて随時支援員を募ると共に、民間放課後児童クラブの新規開設が捗るよう民間事業所への情報提供や助言の強化に努める。					

教育大綱:基本目標	3 学校・家庭・地域のつながりを深め、地域全体の教育力の向上をめざします
施策の基本的方向	8 人権尊重の社会づくりの推進

■指標(進捗管理目標)対象事業

(30) 人権学習・啓発等の推進						
<p>全ての人がお互いの「個性」を尊重し、多様性を認めあい、互いに支えあいながら人権が尊重される社会の実現をめざして、人権をめぐる今日の社会情勢を踏まえた人権学習・啓発等を推進し、学校・地域・家庭・企業・関係団体等が協力しあい、人権意識の高揚を図ります。既存の人権問題の変化や、インターネットにおける人権問題やセクシュアルマイノリティの人権問題といった新たな人権問題等、時代の変化にあわせた人権啓発の取組を進めます。</p>						
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価	
自治会での人権学習会の評価(5段階評価)	4.6	4.8	4.6	3.7	B	
主な事業又は取組	目的	成果(実績)			決算(千円)	担当課
① 人権尊重都市推進事業	人権が尊重される社会の実現をめざす。	市内各地域で人権のつどい及び各自治会の人権学習会を実施した。コロナ禍ではあったが、実施方法を工夫しながら多くの市民に参加していただいた。 人権学習会:実施率92.6%(410/426自治会) 人権学習会・地域人権のつどい参加者数 3,597人			3,617	人権施策推進課
② じんけん連続講座事業	人権尊重のための知識をより一層養う。	じんけん連続講座を4回(第1回:高齢者、第2回:ハラスメント、第3回:子ども、第4回:部落差別)開催した。毎回テーマを変え、各分野の人権について理解を深める機会となった。 参加者数 第1回:52人、第2回:65人、第3回:35人、第4回:54人			46	人権施策推進課
低評価となった理由(D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと	集合形式の人権学習が実施できない場合は、各世帯に啓発資料を配布いただくなど啓発に努めた。じんけん連続講座は、手指消毒や体温測定、換気対策など新型コロナウイルス感染対策を行いながら開催した。					
課題・今後の取組	アフターコロナによる人権学習会の開催方法について、各自治会の開催状況をふまえて検討する。					

教育大綱:基本目標	3 学校・家庭・地域のつながりを深め、地域全体の教育力の向上をめざします
施策の基本的方向	8 人権尊重の社会づくりの推進

■指標(進捗管理目標)対象事業

(31) 男女共同参画に関する学習機会・啓発等の推進						
男女の人権が尊重され、一人ひとりが地域や家庭・職場等、社会のあらゆる分野でいきいきと活躍できる男女共同参画社会の実現をめざして、学習機会の提供や意識啓発等を推進します。						
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価	
固定的な性別役割分担意識にとらわれない人の割合(男女共同参画に関する市民意識調査)	58.9%	70.0%	70.0%	— ※	—	
※男女共同参画に関する市民意識調査は5年ごとに調査(令和3年度実施)となっており、令和4年度調査がなかったため。						
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	評価	担当課
① 長浜ジョブカフェ事業	地域・家庭・職場等様々な場面で、女性が活躍できる社会の実現をめざす。	起業セミナー(基礎クラス・フォローアップ講座)を開催した。セミナー開催のほか、事業開始の後押し・継続し続けられるようなサポートとして交流会や発表会を開催した。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため人数制限をしつつも対面でのサポートができ、発表などの実践に移すなど積極的に行動され、行動率70%との結果に表れた。(行動率:開業・事業開始した人数/受講者合計)		766	達成	人権施策推進課
未達成となった理由 (未達成のみ記入)						
工夫・努力したこと	感染状況に応じ、会場とオンラインを使用し、セミナーを中止することなく開催した。また事業継続するためのブラッシュアップ、発表の場を設け更なる行動に繋げることができた。					
課題・今後の取組	引き続き起業セミナー(基礎クラス・フォローアップ講座)の開催及び交流の機会や発表の場を提供し、行動率70%以上を目指す。					
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	評価	担当課
② 男女共同参画啓発事業	性別に関係なく一人ひとりがいきいきと活躍できる社会の実現をめざす。	長浜市パートナーシップ推進協議会委員と街頭啓発を3回実施し、声かけだけでなく男女共同参画に関するシールアンケート調査を行うことでより深い啓発ができた。 男性(父親及び祖父)をターゲットにした男女共同参画啓発講座(親子料理教室)を開催し、男性の家事育児参画のきっかけづくりに繋げることができた。		659	達成	人権施策推進課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと	街頭啓発では、マスクやビニール手袋着用等感染対策をしながら実施した。					
課題・今後の取組	市内全域へ啓発できるよう、男女共同参画啓発講座を南部・北部地域での複数開催を検討・実施する。					

基本目標4

地域の伝統・文化を生かし、
郷土を愛する心を育てます

教育大綱・基本目標	4 地域の伝統・文化を生かし、郷土を愛する心を育てます
施策の基本的方向	9 地域の伝統・歴史・文化の継承

■指標(進捗管理目標)対象事業

(32) 文化財の調査と保護の推進						
<p>本市には、未指定を含めた多様な文化財が数多く存在し、それら貴重な文化財を市民の財産として親しまれるよう、積極的に基礎的な調査と資料整理を行うとともに、文化財指定等を通じて文化財保護に努めます。 市内の文化財の写真・解説・伝統行事等のデジタル化を進め、データベース化し歴史文化資産として活用することに努めます。 歴史文化発信の基礎となる資料の収集に取り組むとともに、個人や地域で守れなくなった文化財を保存する収蔵庫については、既存施設の再編等を進める中で収蔵スペースを拡大し、適切な保存環境の確保に努めます。</p>						
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価	
指定文化財の件数	453件	459件	472件	470件	A	
主な事業又は取組	目的	成果(実績)			決算(千円)	担当課
① 伝統的建造物群保存対策調査事業	余呉町菅並の貴重な建造物と独特な景観の価値を再確認し、それらを活かしたまちづくりを行うため、伝統的建造物群の保存対策調査を実施する。	菅並集落は調査の成果をまとめた。木之本宿は調査に基づいて登録文化財の手続きを行った。			1,735	生涯学習課(文化財保護室)
② 名勝慶雲館庭園保存整備事業	国指定名勝である慶雲館庭園の整備を進める。	令和4年度は露地門と渡り廊下庇の修理工事、表門西側の石積みと本庭枯流れ、レンガ柵蓋の修理工事、植栽修復剪定を実施した。			12,500	生涯学習課(文化財保護室)
低評価となった理由(D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと	地域の活用、保護が進められるように3年かけて調査を実施し、菅並の特徴、歴史を「菅並集落伝統的建造物群保存対策調査報告書」としてまとめた。					
課題・今後の取組	伝統的建造物群保存地区への選定検討など菅並集落の今後の活用を検討することが必要となる。					

(33) 歴史文化の継承						
<p>市民が自分たちの地域の歴史や文化を通じて郷土を愛する心と豊かな情緒を培い、歴史文化が市民にとってさらに身近なものになるよう、関係機関と連携し、学校の授業や地域を対象に、歴史講座や伝統文化の体験学習等を開催します。 地域の文化財を後世に伝えるため、文化財を地域で守る体制を確立し、保存活用団体等の活動を支援します。さらに、文化財を歴史文化遺産として市内に点在している文化財をジャンルやエリアで一体として捉え、保存活用する体制を進めます。 歴史文化を学び、語り伝える人材を育成する為、歴史文化に関する学習機会を提供します。また、文化財の保存・修理に関わる技術者養成の支援を行います。</p>						
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価	
地域にある文化財を保護・活用する保存活用団体等の数	1件	3件	1件	1件	A	
主な事業又は取組	目的	成果(実績)			決算(千円)	担当課
① 博物館・資料館における教育普及事業	市民や子どもたちが長浜の歴史・文化を通じて郷土に愛着と誇りを持つことができる機会を提供する。	博物館・資料館において、長浜市の歴史や文化をテーマとした魅力ある講演会や現地研修、体験学習等を各館友の会との共催により開催した。 【教育普及事業参加者数】3,705人 ※長浜城歴史博物館・浅井歴史民俗資料館・高月観音の里歴史民俗資料館合計			0	文化観光課(歴史まちづくり室)
低評価となった理由(D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと	コロナ禍にあっても最大限の感染防止対策に努めながら、講演会や現地研修、体験学習等を開催した。特に、浅井歴史民俗資料館で実施している小学3年生の社会科単元「古い道具と昔の暮らし」にともなう「昔の暮らし体験」学習では、市内小学校のみならず市外小学校の受入れも行った(市内25校、市外6校受け入れ)。					
課題・今後の取組	博物館・資料館の支援団体である友の会組織は、各館が実施している歴史文化活動のうち、教育普及活動を一手に引き受けている存在であり、博物館・資料館(行政)と市民の協働体制が確立した好例といえる。今後もこの体制を保ちつつ、事業の充実に努めたい。一方で、こうした活動をサポートいただいているボランティア(長浜城歴史博物館友の会・あざい歴史の会・観音の里歴史民俗資料館友の会)のメンバー固定化・高齢化が顕著なことから、新たなボランティアの取り込みが課題である。					

教育大綱・基本目標	4 地域の伝統・文化を生かし、郷土を愛する心を育てます
施策の基本的方向	9 地域の伝統・歴史・文化の継承

(34) 歴史文化の活用と情報発信

観光や地域振興等、他の部署と連携を図り、歴史文化を活かしたまちづくりを推進します。
 資料館を地域の歴史文化を活かした住民主体の魅力ある地域づくりの活動拠点として体制の強化を図ります。
 各歴史文化施設の特徴を生かしながら、その地域の歴史文化や先人をテーマにした展覧会・講演会・見学会等を行い、これらを刊行物やインターネットを活用して情報発信することで、本市の魅力を広く内外に周知する機会を増やします。

指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
長浜城歴史博物館の入館者数	99,481人	130,000人	110,000人	90,118人	C

主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	担当課
① 長浜城歴史博物館 展覧会開催事業	長浜市が持つ歴史の多様性や魅力を市内外に広く周知する。	湖北・長浜の歴史文化や人物をテーマとした展覧会(企画展・特別陳列)を開催した。浅井長政450回忌記念特別展「浅井長政と菩提寺・養源院」、没後100年記念展「中川耕斎」、国友一貫斎関係資料重要文化財指定記念企画展「国友一貫斎」ほか。	6,181	文化観光課(歴史まちづくり室)
低評価となった理由 (D評価のみ記入)				
工夫・努力したこと	市の政策や周年記念など、市民の関心が高い、時宜にあったタイムリーな内容の展覧会を開催するなど、博物館活動を通して地域のアイデンティティの根幹をなす「地域の歴史と文化」を広く市民や子どもたちに伝え、より深く知る機会を提供することができた。また、地域博物館として、歴史や文化による地域振興、観光振興へ寄与することができた。			
課題・今後の取組	今後も湖北・長浜の歴史文化や人物をテーマとした展覧会、市の政策や周年記念など、時宜にあった展覧会を開催し、市民や観光客に長浜市がもつ歴史の多様性や魅力を広く紹介するとともに、求められているニーズを的確に把握し、異分野との連携やSNSを活用した広報戦略など、入館者増対策を図る。			

基本目標5

いつでも、どこでも、だれでも学びあえる
生涯学習環境の充実を図ります

事業No.に★がついている事業は外部評価の対象です。

教育大綱:基本目標	5 市民一人ひとりが学びあえる生涯学習環境の充実を図ります
施策の基本的方向	10 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(35) 誰もが学べる場の提供					
市民の身近な学びの場として、まちづくりセンターや文化ホール、体育施設、図書館等が主に活用されることから、各施設の立地環境や地域の特性に応じた、市民が取り組みやすい学びの場を提供するよう努めます。					
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
地域に根ざした生涯学習事業(子ども学びと生涯学習のまちづくり推進事業)の計画講座数	429講座	460講座	450講座	353講座	B
子ども学び座の計画講座数 →上段に統合	→上段に統合	→上段に統合	→上段に統合	→上段に統合	-
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 子ども学びと生涯学習のまちづくり事業	地域における生涯学習拠点を活用し、地域の特性やテーマを活かした事業を通じて異世代交流を図り、市民や社会ニーズに応じた生涯学習機会を提供する。	全地域のまちづくりセンター等で、子どもから大人までの生涯学習講座を実施した。 参加者延べ数:8,142人 実施講座数:353講座		3,462	生涯学習課
② 子ども劇場推進事業	身近な「本」の読み聞かせから紙芝居、人形劇まで子どもの学びの機会を展開させ、人形劇等を通じて子どもの豊かな感性や想像力、社会性、学び力を育む。	人形劇派遣事業(アウトリーチ)を実施した。 実施校・園等 計25箇所 参加人数 1,769人		727	文化スポーツ課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	すべてのまちづくりセンター等において感染対策を講じながら、地域の特性を生かしたまちづくり・つながりづくりにつながる生涯学習講座を実施した。				
課題・今後の取組	引き続き、各施設の地域特性を生かした学びの場を提供する。				

★(36) 多様な学びの機会の提供					
各年齢層や性別によって学びの関心や重要度も異なることから、あらゆる世代に対応できるような学習種別と機会の提供に努めます。また、市民にわかりやすく系統立ったプログラム編成をめざします。					
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
生涯学習講座(学びなおし講座)の計画講座数	9講座	12講座	12講座	9講座	B
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 【再掲】子ども学びと生涯学習のまちづくり事業	地域における生涯学習拠点を活用し、地域の特性を生かし市民ニーズに応じた生涯学習機会を提供する。	全地域のまちづくりセンター等で、子どもから大人までの生涯学習講座を実施した。 参加者延数:8,142人 実施講座数:353講座		3,462	生涯学習課
② 地元先生育成プロジェクト	大学等の高等教育機関と連携し、まちづくりセンター等において特色ある学びの提供を行い、学びから地域で活躍する人材の育成を図る。	びわ湖東北エリアの大学や市内県立高等学校と連携し、地域で活躍する人材の育成を図る講座を実施した。 9講座実施(全10講座のうち1講座は、荒天により中止)、延べ128人参加。		100	生涯学習課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	子どもから大人まで様々な年代に応じた講座を実施した。また、地元先生育成プロジェクトでは、学びから地域活動に役立つ講座やワークショップを実施した。				
課題・今後の取組	引き続き、地域の特性を生かし、市民・社会のニーズに応じた多様な学習機会の提供の充実を図り、自主的、主体的な学習活動を支援する。学校や地域、大学、企業、民間団体など様々な関係機関との連携・協働をさらに推進する。				

教育大綱:基本目標	5 市民一人ひとりが学びあえる生涯学習環境の充実を図ります
施策の基本的方向	10 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(37) 学びを深める人づくりの支援						
<p>学びを深め広げるには、多様な知識や考えを持った多くの人材を必要とします。知識や技能を習得するばかりでなく、他の機会に共有できる仕組みづくりに努めるとともに、長浜を愛し、地域づくり活動へつなげるよう支援していきます。</p>						
指 標(進捗管理目標)		計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
リーダー育成事業 目標人数に対する参加率		80.0%	90.0%	80.0%	81.0%	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)			決算(千円)	担当課
① 「長浜人(ながはまびと)に学ぼう!!」事業	市内高校の在學生に、長浜を知り、進路や生き方を考える機会となるような講演会等を実施することで、長浜に愛着を持ち、地域や産業を担う人材を育成し、若者の定住促進、ふるさと回帰を図る。	市内すべての高校で講演会等を実施した。 ・長浜北星高校…1年生200名 ・長浜北高校…1年生276名 ・虎姫高校…1年生198名 ・伊香高校…3年生83名 ・長浜農業高校…114名			239	こども若者応援課
② 【再掲】地元先生育成プロジェクト	大学等の高等教育機関と連携し、まちづくりセンター等において特色ある学びの提供を行い、学びから地域で活躍する人材の育成を図る。	びわ湖東北エリアの大学や市内県立高等学校と連携し、地域で活躍する人材の育成を図る講座を実施した。 9講座実施(全10講座のうち1講座は、荒天により中止)、延べ128人参加			100	生涯学習課
低評価となった理由(D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと		長浜人に学ぼう事業では、市内高校生が長浜で活躍している大人から、本市が持つ歴史、文化、産業など様々な魅力を学ぶことで将来を考える機会とし、地域への愛着と誇りの醸成を図った。また、将来の地域づくりを担うリーダー育成事業や地元先生育成プロジェクトにより学びから人づくり、地域づくりへとつなげる講座を実施した。				
課題・今後の取組		引き続き、学びからの人づくり、つながりづくり、地域づくりにつながる学習機会の提供を行うとともに、地域の学びの展開とその支援を行う学びを支える人材の育成を図っていく。				

★(39) 図書館サービスの充実						
<p>市民の多様で高度な資料要求に応え、市内全域にサービスを届けるために、中央図書館機能を持つ長浜図書館を要として各図書館が一体となった体制を確立します。また、レファレンス機能を強化し、一人ひとりに寄り添ったきめ細かい資料提供をおこなうことで、市民が暮らしの中でより身近で便利に図書館を利用できるようサービスの充実に努めます。</p>						
指 標(進捗管理目標)		計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
レファレンス事例のホームページ公開件数		—	15件	5件	15件	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)			決算(千円)	担当課
① レファレンス事例の公開	カウンター等で受け付けた質問の調査事例を公開することで、レファレンスサービスを広く周知し、活用の促進を図る。	図書館ホームページにレファレンス事例15件を公開した。(一般編7件 児童編8件)			0	生涯学習課(図書館)
低評価となった理由(D評価のみ記入)						
工夫・努力したこと		館内の受付体制を整え、より丁寧に対応できるようにした(年間受付件数170件)。職員全員を対象としたレファレンス研修(インタビュー編・実践編)を実施した。広報ながはままでレファレンスサービスについてお知らせした。				
課題・今後の取組		全職員を対象とした全体研修のほかに初任者、中級者など経験に応じた研修を実施する。レファレンスサービスについて、引き続き市民に周知していくことも必要である。				

◇事務評価委員会所見等

事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等【生涯学習課】
レファレンスサービスについて、一般編や児童編と分かりやすく公開されているとお聞きし、親しみが持てるものだと感じた。	引き続き、レファレンスサービスを広く市民に知ってもらい活用されるよう、職員研修を実施し、情報発信に努めます。

教育大綱:基本目標	5 市民一人ひとりが学びあえる生涯学習環境の充実を図ります
施策の基本的方向	10 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(40) 図書館を情報拠点とした市民の学習活動の支援					
市民の知る自由を保障するため、誰もが図書館サービスを利用してあらゆる学習活動を深めることができ、地域の活性化・暮らしの豊かさにつなげるための情報拠点となるよう、市民に役立つ資料を充実させ、市民の学習活動の場を提供します。そして、これらの成果を情報として蓄積し、新たな学習活動につなげていきます。					
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
図書館における貸出冊数	873,970冊	1,300,000冊	1,000,000冊	847,524冊	B
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 資料の充実	将来にわたって市民の生涯学習の拠点となるために、地域に関する資料や暮らしに役立つ資料、知識を深める資料を幅広く計画的に収集する。	全館で1年間に19,520冊(うち新規購入16,670冊)を受け入れ、6図書館、3図書室に配本した。		32,841	生涯学習課(図書館)
② 資料・学習機会の提供	暮らしや仕事、生活に役立つ資料を提供することで、市民の学習活動を支援し、豊かに生きるための学びの機会を推進する。	他の機関と連携した展示で、図書館の資料だけでなく、さまざまな情報を市民に発信し、学びの機会を提供した。		0	生涯学習課(図書館)
低評価となった理由 (D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	時事ニュースやイベントなどに関連した図書のコーナーを作り、市民の興味関心に応えられるようにした。さまざまな啓発展示の機会に図書も紹介し、市民の理解が深まるようにした。				
課題・今後の取組	市民の暮らしや学習意欲を支えられるよう、資料を充実させ、活用する必要がある。				

◇事務評価委員会所見等

事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等【生涯学習課】
いつも図書館の本の展示コーナーを見せていただいている。そこでは図書館がどういった情報提供をされたいのかが感じられ、いつも楽しみにしている。是非、これからも展示に力を入れていただきたい。	引き続き、展示コーナーについては季節や時事など幅広い分野の図書を紹介できるよう努めます。

教育大綱・基本目標	5 市民一人ひとりが学びあえる生涯学習環境の充実を図ります
施策の基本的方向	10 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(41) 子どもの読書活動の推進					
読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。そのため、子どもたちが幼児期から読書習慣を身に付けることができるように、学校・園、家庭、地域が連携・協働体制をとり読書環境の整備を進めます。					
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
1か月間の読書冊数が1冊以下の割合 ・小学4年生から6年生	8.8%	7.5%	8.3%	12.1%	C
1か月間の読書冊数が1冊以下の割合 ・中学生	33.9%	15.0%	26.3%	39.2%	C
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① つなごう！子どもと本～「けやきっ子プロジェクト」～事業	市の木「けやき」になぞらえ、読書を通じてのびのびと豊かに生きる長浜の子～けやきっ子～を育む。	市内小中学校のクラスへ学級巡回文庫「おはなしのたからばこ」を9回配本した。(小学校22校228クラス、特別支援学級46クラス/中学校9校93クラス、特別支援学級21クラス/義務教育学校2校21クラス、特別支援学級6クラス) 滋賀県立大学、滋賀文教短期大学などと連携して、中学生から大学生世代に向けて読書活動を促す展示事業などを行った。 図書館で活動するおはなしボランティアグループが一堂に会し、成果発表や交流、情報交換を行った。		2,013	生涯学習課(図書館)
低評価となった理由 (D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	大学生が企画した展示事業は、市内や近隣の中学校・高校へもお知らせした。あわせて、学校に市立図書館の利用案内の設置も協力依頼した。 ボランティアグループがコロナ禍における活動の悩みを共有し、充実した活動につながるようにした。				
課題・今後の取組	読書離れが顕著な中学生から大学生世代に対して、引き続き読書活動を促す取組を行う必要がある。				

◇事務評価委員会所見等

事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等【生涯学習課】
子どもの読書量については、学力に直結してくる部分があると思う。子どもたちが1人1台のタブレットを持ち、便利な事をどんどんやっているが、「本」は「本」で非常に価値があると思うので、より強化していただければと思う。	引き続き、子どもにとって本との出会いがかけがえのないものであるということ、図書館のみならず学校・家庭とも思いを共有できるよう働きかけてまいります。
貸出冊数が減っていることがとても気になる。図書館や学校でも様々な取組をされているので、子どもたちにはもっとたくさん本を読んでもらいたい。	貸出冊数の減少は様々な要因が考えられます。子どもを取り巻く環境や背景をふまえながら、図書館だけでなく学校や家庭においてそれぞれの立場で地道に子どもに本を手渡す活動が継続されるよう、工夫してまいります。
低学年までは親が関わり、本を読んでいるのではないかと思うが、子どもたちが小さい時に本を読んでもらった経験は、大きくなってもポジティブな影響が、かなりあるのではないかと思っている。小学生になれば自分で本を読めるようになるが、保護者が本を読んでもあげることが大切なことなので、これからも本の読み聞かせを続けていっていただきたい。	今後も、幅広い年齢の子どもたちに、その成長に即した読書活動が継続されるよう、学校や家庭、地域とつながりながら各事業を進めます。
今はインターネットで本が読める環境があり、本を選ぶのは楽しいが、スタートでいきなり図書館で本を選ぶとなると、本から離れてしまう現実もあると思う。	本を選ぶ方法は子どもの環境によってさまざまですが、図書館に来て本を選ぶのに困ったときは、気軽に図書館司書に声をかけてもらえるよう、働きかけます。また、気軽に手に取ったり選んだりする時の参考になるように本の見せ方や置き方を工夫してまいります。
中学校に勤務していた時に、読み聞かせボランティアの方に、子どもたちに非常に上手く読んでいただき、感動する場面が何度もあった。そういった活動がなくなる事がないようにしていただきたい。	引き続き、読書ボランティアの方々のサポートができるよう支援体制の整備と図書館司書の資質向上に努めます。
IT環境により、子どもたちが本そのものに触れる機会が非常に少なくなっている。中学生も自由に使える時間が少なく、部活動等があると本を借りにくいこともあると思うが、しっかりと本を読むという習慣をつける事は必要な事だと思う。なかなか難しい事だと思うが、読書をする子どもたちが減ることがないように、学校や家庭の協力も必要だと思うが、よろしく願いたい。	読書離れが顕著な世代に対して、地道に読書に関心を持てる機会をつくれるよう、学校・地域・家庭と連携してまいります。
読書離れがかなり顕著であるが、おそらくITやAIなどの影響がかなりあるのではないかと思う。人間は必要な情報は得るが、そうでない情報は得ないというのが最近の傾向ではないかと感じるし、このような中で学校教育とのバランスが崩れてきているように思う。学校と連携していかなければ、なかなか図書館単体で取り組まれるのは困難なのではないかと思うので、是非学校と連携して、こういった取組をしていただきたい。	子どもたちが必要な情報を様々な方法で得ることができるよう、またその情報から自分が知りたいことを選び読み解くことができるよう、学校や家庭と連携してまいります。

教育大綱:基本目標	5 市民一人ひとりが学びあえる生涯学習環境の充実を図ります
施策の基本的方向	10 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

■その他事業

★(38) 学びのための情報発信					
学びの機会を設けたときは、適切に周知することが必要です。地域や対象等、適切な範囲に適切な情報提供を行います。					
主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
① 学びの機会や場の情報提供	市民が様々な手段で気軽に生涯学習講座などの情報を得る機会をつくる。	情報誌「生涯学習のおさそい」を作成し、各まちづくりセンター等に配布した。 また、今年度から市HPだけでなく、滋賀県学習情報提供システム「におねっと」にも掲載して幅広く周知を行った。	0	達成	生涯学習課
未達成となった理由 (未達成のみ記入)					
工夫・努力したこと					
課題・今後の取組	県の生涯学習情報提供システム「におねっと」とも連携し、様々な手段で情報が届くよう積極的な情報発信に努める。				

教育大綱・基本目標	5 市民一人ひとりが学びあえる生涯学習環境の充実を図ります
施策の基本的方向	11 文化・芸術の創造と振興

■指標(進捗管理目標)対象事業

(42) 文化芸術の鑑賞の充実と創作・発表・交流活動への支援					
市民が文化芸術に興味や関心をもち、心豊かな暮らしが実現できるよう、幅広い年齢層を対象に様々なジャンルの質の高い文化芸術の鑑賞機会を提供します。また、多くの市民が創作や発表等、文化芸術活動を通して自己実現するとともに、お互いの交流を深め、多彩な地域文化を育むことができるよう支援を行います。					
指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
長浜市文化芸術ユース会議実施イベントの参加者数	812人	900人	820人	1,388人	A
自校主催の吹奏楽演奏会を開催している中学校の数	4校	5校	4校	3校	B
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 文化芸術活動振興事業	市民の文化活動を支え、文化事業を推進することにより、魅力ある地域を生み出し、「市民の心の豊かさ」と「まちの活性化」につなげる。	次のとおり、各事業の実施や団体活動の補助を行った。 次世代育成事業(キッズアートフェスティバル等) 5事業 市民文化創造事業(市民音楽祭等) 10事業 鑑賞型事業(オーケストラ公演・落語公演等) 3事業 文化団体活動補助等 3団体 1事業		17,176	文化スポーツ課
② ユース芸術文化活動振興事業	若者が自主的に新たな文化事業の企画・運営を行い、文化を通して次代を担う子どもたちや若者をはじめ、市民が気軽に文化芸術活動にふれることができる環境の創造を図る。	次のとおり、各事業の活動補助等を実施した。 人材育成事業(演劇ワークショップなど) 3事業 子ども芸術体験事業(学校派遣) 11校 2事業 舞台芸術制作事業 2公演 交流事業 1事業		1,442	文化スポーツ課
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	新型コロナウイルスの感染対策を徹底しながら、できる限り文化事業を実施し、充実させた。				
課題・今後の取組	引き続き、次世代育成事業や市民参加型の市民文化創造事業の充実を図り、市民が文化芸術に触れる機会を創出する。				

教育大綱・基本目標	5 市民一人ひとりが学びあえる生涯学習環境の充実を図ります
施策の基本的方向	11 文化・芸術の創造と振興

(43) 文化施設の活用と文化芸術団体との連携・協力

市民の主体的な文化芸術活動を通してまちの活性化をめざすため、文化芸術関係団体の連携・協力を進め、文化施設の有効な活用を図ります。

指 標(進捗管理目標)	計画策定時	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
長浜市舞台芸術交流祭の参加団体数	8団体	9団体	8団体	14団体	A
長浜市芸術文化祭の参加事業数	54事業	60事業	事業終了	事業終了	-
長浜市民芸術文化創造協議会会員数	8団体	9団体	9団体	9団体	A

主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	担当課
① 【再掲】 文化芸術活動振興 事業	市民の文化活動を支え、文化事業を推進することにより、魅力ある地域を生み出し、「市民の心の豊かさ」と「まちの活性化」につなげる。	次のとおり、各事業の実施や団体活動の補助を行った。 次世代育成事業(キッズアートフェスティバル等) 5事業 市民文化創造事業(市民音楽祭等) 10事業 鑑賞型事業(オーケストラ公演・落語公演等) 3事業 文化団体活動補助等 3団体 1事業	17,176	文化スポーツ課
低評価となった理由 (D評価のみ記入)				
工夫・努力したこと	新型コロナウイルスの感染対策を徹底しながら、できる限り文化事業を実施し、充実させた。			
課題・今後の取組	長浜市芸術文化祭は紙媒体により市内の文化イベントを紹介する事業であったが、よりリアルな情報発信が求められる中、文化芸術ポータルサイト「文化のまちあいしつ」等での積極的なPRを図るとして事業見直しを行った。今後も代替事業は予定しておらず、指標の見直しが必要である。 文化芸術団体の中には、メンバーの高齢化や固定化などにより活動の広がりが生まれにくく、継続的な活動が困難となっている団体もあるため、次世代育成事業の充実や団体活動のサポート強化を図っていく。			

教育大綱・基本目標	5 市民一人ひとりが学びあえる生涯学習環境の充実を図ります
施策の基本的方向	12 スポーツ活動の推進

■指標(進捗管理目標)対象事業

(44)「する」スポーツの推進								
生涯にわたりスポーツに親しめるようライフステージに応じたスポーツ活動を推進するとともに、競技スポーツ選手の育成支援、スポーツ環境の整備を進めます。								
指 標(進捗管理目標)		現状値	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価		
スポーツ施設利用者数(学校開放事業除く)		530,239人	560,000人	530,000人	571,798人	A		
全国規模大会開催数		4件	15件	4件	4件	A		
主な事業又は取組		目的			成果(実績)		決算(千円)	担当課
①	大規模スポーツイベントの実施	大規模なスポーツイベントを実施することで、生涯スポーツへの関心を高め、市民の健康増進を図る。			市民の健康増進を図るため、大規模スポーツイベント(長浜ツーデーマーチ、お市マラソン)の実施に向けて取り組んだ。		16,000	文化スポーツ課
②	スポーツ施設維持管理修繕	安心安全な施設利用のため、施設の修繕を図る。			長浜市民プールウォータースライダーの改修、山本山運動場バックネット補強の他、施設の防火設備・電気設備等の修繕を行った。		19,639	文化スポーツ課
低評価となった理由(D評価のみ記入)								
工夫・努力したこと		コロナ禍においても、多くの方が安心して事業参加(施設利用)できるよう、事業主催者や施設管理者において感染症対策を徹底するとともに事業参加者や施設利用者へ感染症予防についての啓発等を行った。						
課題・今後の取組		コロナ禍において、多くの方がスポーツイベントに参加し楽しむことができるよう、制限を設けるとともに感染症対策を徹底し事業を実施してきた。新型コロナウイルスが5類に分類され、制限等を設けずより多くの方が参加できるよう引き続き安全・安心な事業として計画・実施していく。						

■その他事業

(45)「みる」スポーツの推進								
令和7年に滋賀県で開催される予定の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会をスポーツ振興の絶好の機会としてとらえ、スポーツに対する関心を高め、子どもたちに夢や希望を与えられるよう大規模大会の誘致やトップアスリートと交流できる事業に取り組めます。								
主な事業又は取組		目的		成果(実績)		決算(千円)	評価	担当課
①	ながはまスポーツ夢プロジェクト	子どもたちが著名なアスリートや指導者と触れ合う機会を提供することで、スポーツに対する夢や希望を育む。		次のとおり事業を実施し、子どもたちが著名なアスリートや指導者と触れ合う機会を提供した。 ・幼少期スポーツ教室(R4.5~R5.3)546人 ・キッズ「アスリアル」(R4.8.27)68人 ・夢の教室(R5.1~3) 211人		2,990	達成	文化スポーツ課
未達成となった理由(未達成のみ記入)								
工夫・努力したこと		コロナ禍の状況を踏まえ、事業規模を検討し感染予防対策を講じた上で事業を実施した。						
課題・今後の取組		大規模な大会の観覧(応援)やトップアスリートとの交流など、体験の機会を提供することによりスポーツへの関心をより一層高め、夢や希望を抱くことができるような事業を実施していく。						
主な事業又は取組		目的		成果(実績)		決算(千円)	評価	担当課
②	スポーツ大会への助成	市内で開催されるスポーツ大会への助成を行い、市民の「みる」スポーツへの関心を高める。		第72回長浜ひょうたんボウル開催への支援を行い、約1200人が観戦し、市民の「みる」スポーツへの関心を高めた。		100	達成	文化スポーツ課
未達成となった理由(未達成のみ記入)								
工夫・努力したこと								
課題・今後の取組		市民が「みる」スポーツの一つであるアメリカンフットボールにより興味を持ち、日本で3番目に歴史のある長浜ひょうたんボウルが今後も本市で継続されるよう、市内の小学校でアメリカンフットボールに繋がるフライングフットボールレベルアップチャレンジに取り組んでいく。						

教育大綱・基本目標	5 市民一人ひとりが学びあえる生涯学習環境の充実を図ります
施策の基本的方向	12 スポーツ活動の推進

(46)「ささえる」スポーツの推進					
国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の成功に向け組織体制の強化や指導者やボランティアの育成を図ります。また、地域スポーツを支える総合型地域スポーツクラブの活動やスポーツ活動に対する支援を行います。					
主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
① 各スポーツ団体への助成	スポーツ団体への助成を実施し、特に国スポ・障スポ大会の長浜市開催競技団体の組織強化を図る。	長浜市スポーツ協会へ650千円、長浜市スポーツ少年団へ3,711千円の団体運営補助を行った。	4,361	達成	文化スポーツ課
未達成となった理由 (未達成のみ記入)					
工夫・努力したこと	コロナ禍で活動自粛や大会中止等となる中、従前から取り組んでいる団体事業(交流戦等)を実施しモチベーション維持に努めた。				
課題・今後の取組	コロナ禍が落ち着き、2025国スポ障スポ大会に開催に向けて地域一丸となって気運が高まるよう、スポーツ団体の活動充実と啓発に取り組んでいく。				
主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
② 総合型地域スポーツクラブの育成・支援	クラブの育成・支援を行うことで、地域の実情に応じたきめ細やかなスポーツ活動を推進する。	市内9地域でクラブを設立し、各地域の実情に応じて、誰でも身近な場所でいつでもスポーツができるよう支援した。	2,166	達成	文化スポーツ課
未達成となった理由 (未達成のみ記入)					
工夫・努力したこと	定期的に総合型地域スポーツクラブ連絡協議会を開催(全6回)し、クラブの課題解決等に向けた意見交換や情報提供を行い、地域の実情に応じたスポーツ活動の推進に努めるとともに、中学校部活動の地域移行にかかる市の取組みについて情報提供を行った。				
課題・今後の取組	各クラブにおける課題は共通点も多いことから、課題解決に向けて連絡協議会で情報共有し協議を行い、連携して取り組んでいく。 また、部活動の地域移行がうたわれている中で、総合型地域スポーツクラブとして協力可能な部分を検討するとともに、長浜市スポーツ協会や長浜市スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブの連携を密にしていく。				

基本目標6

安全・安心で質の高い
教育を支える環境を整備します

事業No.に★がついている事業は外部評価の対象です。

教育大綱・基本目標	6 安全・安心で質の高い教育を支える環境を整備します
施策の基本的方向	13 質の高い教育のための環境整備

■指標(進捗管理目標)対象事業

★(47) 誰もが安心して学べる学校・園施設等の整備					
<p>学校・園施設は、子どもたちが一日の大半を過ごす学習や生活の場です。安全・安心な教育環境を維持していくため、学校の適正配置を踏まえた上で施設の長寿命化改修を計画的に進めます。 また、インクルーシブ教育の理念に基づき全ての子どもが地域で教育を受ける機会を整えるため、エレベーターの設置等、施設のバリアフリー化にも継続して取り組みます。</p>					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
小学校・中学校・義務教育学校のエレベーター設置割合	小:52.2%	小:60.0%	小:52.2%	小:52.2%	A
	中:70.0%	中:100.0%	中:70.0%	中:70.0%	A
	義:100.0%	義:100.0%	義:100.0%	義:100.0%	A
	合計:60.0%	合計:74.0%	合計:60.0%	合計:60.0%	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 校舎(園舎)維持管理経費	全ての子どもが地域で教育を受ける機会を整えるため、施設のバリアフリー化等を進める。	各校園に設置したエレベーターが正常に動作するよう、保守点検業務を委託するとともに、しょうがいを持つ児童・生徒に対応するための階段昇降車の導入や施設改修・設備の故障等に伴う修繕を実施した。		50,415	教育総務課
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	学校生活を送るうえで活動の補助を必要とする事案に柔軟に対応するため、階段昇降車の導入や階段手すりを設置するとともに、エレベーターを設置するための実施設計を行い、誰もが地域で教育を受けられる環境を整えた。				
課題・今後の取組	エレベーター未設置校への早期設置をはじめとする施設のバリアフリー化を進め、誰もが安心して学ぶことができる環境の整備に努める。				

★(49) 教職員研修の充実					
<p>学校・園のニーズや今日的な課題を踏まえ、就学前教育から中学校教育までの連続的な学びに対応する研修体制を整えるとともに、各現場での主体的な研修を推進・支援していきます。また、それぞれの経験に応じた指導力や教育課題解決力を向上させる実践的な研修を推進し、保育力、授業力、指導力、マネジメント能力等、今求められている「教師力」を向上させる研修の充実に努めます。</p>					
指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
自主啓発研修・研究発表会等に、主体的に参加した教職員の人数	延べ773人	延べ966人	延べ850人	延べ1,133人	A
主な事業又は取組	目的	成果(実績)		決算(千円)	担当課
① 教職員研修事業	今日的な教育的課題解決や学習指導要領の趣旨を実現させるために必要な教職員としての資質・指導力を高めるとともに、専門的視野に立った指導力の向上を目指す。	学校運営の核である養護教諭の指導支援に向け、若手養護教諭への指導派遣を3校に計9回実施した。3年次教員の支援を目的に、校内研究への講師派遣を30校に実施した。また各校にて実施する校内研究・研修への講師派遣を10校に計38回実施した。		1,101	教育センター
② 校内研究・研修支援事業	小学校の校内研究や校内研修を支援することを目的とし、教員の授業力等を図り、学力向上につなげる。	多様な学びを提供すべく、集合研修、オンライン、オンデマンド、アウトリーチ形式を取り混ぜ、ICT活用研修、授業改善研修、教師力向上研修、特別支援教育研修、ESD研修、読み聞かせ講座、幼小連携講座等を延べ40回実施した。さらに教育研究発表大会での教育講演会を実施した。		223	教育センター
低評価となった理由(D評価のみ記入)					
工夫・努力したこと	コロナ禍および学校現場の多忙化に対応すべく、集合研修、オンライン、オンデマンドおよびアウトリーチ形式を併用し研修を開催した。また、ICT研修をはじめ今日的なニーズに沿った内容を提供し、あわせて他の市町と連携した研修を実施した。				
課題・今後の取組	教員免許更新制度の改定に伴い、教職員の研修の機会を提供すべく、ニーズにあった研修を夏季期間に連続して行うことで参加者を増やし、教職員の資質を向上させていく。				

教育大綱・基本目標	6 安全・安心で質の高い教育を支える環境を整備します
施策の基本的方向	13 質の高い教育のための環境整備

★(51) 学校適正配置の協議・取組の推進

子どものための教育の質的充実、教育の機会均等及び水準確保における学校間格差の是正に向けて、外部関係者等を加えた学校適正配置検討会議等を設置して、保護者や地域等の意向を十分に踏まえながら、小中一貫教育校の導入を視野に入れた学校の適正配置の取組の検討を推進します。

指 標(進捗管理目標)	現状値	R7年度 目標値	R4年度 目標値	R4年度 実績値	事業の評価
本市において適正に配置されていると考える学校の割合	82.9%	85.0%	83.0%	82.9%	A
小中一貫教育により「学習指導」、「生徒指導」、「教職員の意識改革」に効果が認められたと回答した教職員の割合	70.8%	前年度比 +0.5%	72.0%	86.7%	A

主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	担当課
① 学校適正配置・小中一貫教育推進事業	教育の質的充実、教育の機会均等及び水準確保における学校間格差の是正を図る。	現在複式学級がある学校、今後5年以内に複式学級が想定される学校について、PTA役員や保護者、学校運営協議会委員との意見交換会を11回開催し、教育環境の充実に向けて検討を進めた。 学校再編を行った4校では、児童生徒、保護者、教職員、地域(学校運営協議会委員)を対象としたアンケートを実施し、学校統合や小中一貫教育の成果と課題の把握に努めた。 また、義務教育学校での研修を支援し、小中一貫教育の質的充実に努めた。	75	教育改革推進室
低評価となった理由(D評価のみ記入)				
工夫・努力したこと	教育環境の充実を図るべく 保護者や地域の皆さんとの話し合いの機会の確保に努めた。			
課題・今後の取組	長期的に児童・生徒数の減少傾向を示す小規模校の中には、教育効果や学習指導の面で適正規模、適正配置の検討が必要な学校がある。保護者や地域の皆さんと十分に話し合い、子どもたちにとってより良い教育環境の在り方について検討を進めていく。			

■その他事業

★(47) 誰もが安心して学べる学校・園施設等の整備

学校・園施設は、子どもたちが一日の大半を過ごす学習や生活の場です。安全・安心な教育環境を維持していくため、学校の適正配置を踏まえた上で施設の長寿命化改修を計画的に進めます。
また、インクルーシブ教育の理念に基づき全ての子どもが地域で教育を受ける機会を整えるため、エレベーターの設置等、施設のバリアフリー化にも継続して取り組めます。

主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
① 長寿命化改修事業	学校施設等を健全な状態で維持し、機能や性能を現在求められている水準まで引き上げる。	○令和4～6年度で実施予定の浅井中学校南校舎の長寿命化改修工事及び仮設校舎の契約を締結し、工事に着手した。 ○令和5～7年度で実施予定の神照小学校・湖北中学校長寿命化改修工事に係る実施設計を行った。	40,494	達成	教育総務課

◇事務評価委員会所見等

事務評価委員会の所見	教育委員会の今後の取組等【教育総務課】
建築資材等が非常に高騰する中で、計画通りに事業が進んでいるのが心配である。また、材料が高くなると質が低いものに変更されたりする事もあるのではないかと懸念する。市も予算が厳しい中にあるとは思うが、学校は子どもたちが、今後長く使用する施設となるため、極力良いものにしていただきたいので、よろしく願いたい。	建築資材等が高騰し、予算の厳しい状況下ではありますが、子どもたちの安全で安心な教育環境を確保するため、無駄を省き、コストを最適化することで、限られた予算内で質の高い学校施設を提供できるよう努めてまいります。

教育大綱・基本目標	6 安全・安心で質の高い教育を支える環境を整備します
施策の基本的方向	13 質の高い教育のための環境整備

■その他事業

★(47) 誰もが安心して学べる学校・園施設等の整備					
<p>学校・園施設は、子どもたちが一日の大半を過ごす学習や生活の場です。安全・安心な教育環境を維持していくため、学校の適正配置を踏まえた上で施設の長寿命化改修を計画的に進めます。 また、インクルーシブ教育の理念に基づき全ての子どもが地域で教育を受ける機会を整えるため、エレベーターの設置等、施設のバリアフリー化にも継続して取り組めます。</p>					
主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
② 学校・園防犯機能強化事業	学校・園において、子どもたちが安心して学び、生活を送れるよう、施設の防犯機能の強化を図る。	○3園(わかば・神照・湖北幼稚園)の緊急連絡用PHS機器を更新した。 ○4校園(余呉小中・長浜西幼稚園・湖北幼稚園・にしあざい認定こども園)の防犯対策強化工事(玄関ドアオートロック化)を行った。	24,229	達成	教育総務課
未達成となった理由 (未達成のみ記入)					
工夫・努力したこと	各工事等の実施にあたっては、各校園・関係課・業者間で綿密な調整と十分な連携を図るとともに、工事中の騒音や工事車両の出入り等、校園の運営に支障のない工程で取り組み、子どもたちに安全で安心な教育環境を整えた。				
課題・今後の取組	今後も、学校施設等長寿命化計画に基づき、施設の適正規模、適正配置を検討しつつ、長寿命化改修等により現有建物を最大限活用し、より良い学びの場を提供していきけるよう、計画的・予防保全的な施設整備に取り組む。				

★(48) 就学援助による経済的支援					
<p>経済的な理由により就学が困難な子どもに対して就学援助による経済的支援を行い、社会のセーフティネットとしての役割を担うとともに、子どもが安心して学習に取り組める環境づくりを推進します。</p>					
主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
① 要保護準要保護児童生徒援助事業	経済的理由によって就学困難と認められる児童及び生徒へ就学援助等を行い、義務教育の円滑な実施に資する。	就学援助認定者に対し援助費の給付を行った(小学校:605人、中学校:402人)。 入学前応援金認定者に対し援助費の給付を行った(小学校:37人、中学校:66人)。	小学校 39,076 中学校 43,512	達成	すこやか教育推進課
未達成となった理由 (未達成のみ記入)					
工夫・努力したこと	保護者の利便性や受付の公平性の観点から、受付期間等の見直しを行った。				
課題・今後の取組	国が進めるシステム標準化への移行に向け、受付等の電子化を検討していく。				
主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
② 特別支援教育就学奨励事業	教育の機会均等の趣旨にのっとり、小・中・義務教育学校の特別支援学級の児童・生徒の保護者へ、就学に必要な経費の一部を支給することにより、特別支援教育の普及奨励及び振興に資する。	特別支援教育就学奨励費認定者に対し援助費の給付を行った(小学校:88人、中学校:44人)。	小学校 3,012 中学校 2,143	達成	すこやか教育推進課
未達成となった理由 (未達成のみ記入)					
工夫・努力したこと	保護者の負担軽減のため、報告手続きを一部廃止した。				
課題・今後の取組	就学援助において国が進めるシステム標準化への移行に合わせ、受付等の電子化を検討していく。				

教育大綱・基本目標	6 安全・安心で質の高い教育を支える環境を整備します
施策の基本的方向	13 質の高い教育のための環境整備

■その他事業

★(50) 教職員の働き方改革の推進					
<p>学校や園での教育は、教職員と子どもたちが人格的なふれあいを通じて行われるものであることから、教職員が心身の健康を保ち、ゆとりをもって子どもと向きあうことができるよう、業務量の適切な管理と教育職員の健康及び福祉の確保を図るための措置を行うよう努めます。</p>					
主な事業又は取組	目的	成果(実績)	決算(千円)	評価	担当課
① 職員のワークライフバランスの取組の推進	『長浜市立学校における働き方改革取組方針』に基づき、各学校の業務改善や校務分掌の見直しと教職員の意識改革を図る。	R4年3月とR5年3月の超過勤務時間を比較すると、45時間以下の超過勤務者は5%増加した(43%→48%)。また、80時間を超える超過勤務者の割合は、2%減少した(11%→9%)	0	未達成	教育指導課
未達成となった理由 (未達成のみ記入)	年度初めや学期末は、書類の作成や成績処理等の業務が集中するため、多くの時間を必要とする。また、中学校においては、中体連等の大会前には、部活動の指導時間に多くの時間を必要とする。このような状況の中で、各校が業務改善に取り組み、勤務時間の削減を進めてきたが、80時間を超える超過勤務者0%という目標達成には至らなかった。				
工夫・努力したこと	各校において、状況を分析しながら、業務改善等の取組を行った。(会議のペーパーレス化、会議時間の厳守等)外部からの電話対応時間等を周知することにより、教職員が職務に専念しやすい状況をつくりだすことができつつある。				
課題・今後の取組	ICTの活用等、さらなる業務改善を図りながら、働き方改革が進むように取組を進めていく。教職員のタイムマネジメント力をつける。				

4 第3期長浜市教育振興基本計画

本市がめざす教育の姿（基本方針）

つながりあい、学びあい、豊かに生きる人づくりをめざす「ながはま」

私たちは、多くのひと・こと・ものに関わり、つながりをもちながら生活しています。本市は、湖北地方特有の美しい自然環境、魅力ある歴史遺産、地域に根づいた伝統文化が満ちあふれており、地域資源や伝統・文化を大切にしてきました。このまちで、「曳山まつり」や「おこない」などに代表される人と人との心のつながりを大切にしてきた先人たちの志を後世に引き継ぐとともに、人と人、学校と地域、心と心、あらゆるものをつなぎ、つながり、一体感のある教育を推進することにより、子どもから大人までが郷土に誇りをもち、生涯を通して学びあい、学び続けることのできる環境を創出します。そして、市民一人ひとりがお互いの人権を尊重し、心豊かな人生を送れるような人づくりをめざします。

令和3年1月

<6つの基本目標>

基本目標1 乳幼児期における就学前教育を充実します

多様化する社会の変化に伴い、コミュニケーション能力や学ぶ意欲の低下、体力の低下など、子どもたちの育ちに影響が出てきています。生涯にわたる人格形成の基礎を培う乳幼児期の就学前教育はとても重要なものであり、児童期における学びの基礎につながる芽生えを育むうえでも大切なものです。発達の過程を見通した遊びや体験を通して、学習意欲や活動意欲を高めるとともに、家庭や地域と連携し、子ども一人ひとりの特性に応じた支援体制を強化するなど、より質の高い、生きる力の基礎を培う就学前教育を充実します。

基本目標2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します

多様化・グローバル化する社会に伴い、子どもを取り巻く環境が大きく変容する中で、自立に向けた「生きる力」を一人ひとりに確実に身に付けさせることが重要です。生涯にわたり学び続ける基盤を培い、充実した人生を送るための基礎づくりとして、確かな学力と豊かな心、健やかな体の育成に取り組む一方、子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握し、指導・支援の充実を図ります。

基本目標3 学校・家庭・地域のつながりを深め、地域全体の教育力の向上をめざします

社会情勢や子育てに対する意識の変化等により、教育へのニーズが多様化しています。次代を担う子どもたちを育て、健やかに成長させることができる地域社会を実現するためには、学校や家庭、地域が情報や課題を共有し、連携した取組が重要です。学校や家庭、地域が自らの役割と責任を果たし、つながりを深めるとともに、一体となって地域全体の教育力の向上をめざします。また、市民一人ひとりがお互いの個性や多様性を認め合い、お互いに支えあいながら、人権が尊重される地域社会をめざします。

基本目標4 地域の伝統・文化を生かし、郷土を愛する心を育てます

本市には湖北地方特有の美しい自然環境、魅力ある歴史遺産、地域に根づいた伝統文化が満ちあふれています。子どもから大人まで市民一人ひとりがあらゆる機会を通して、先人から引き継がれてきた遺産や伝統に触れることは、郷土を誇りに思う心、ひいては郷土を愛する心を育むため、遺産や伝統を守り次世代へ継承する取組を推進します。

基本目標5 いつでも、どこでも、だれでも学びあえる生涯学習環境の充実を図ります

市民一人ひとりが文化や芸術、スポーツなどの生涯学習を通して、自己実現をめざし、お互いに支えあい、学びあう中で、習得した成果を地域社会の中で生かすことは、その人の生きがいにつながります。心豊かな暮らしが実現できるよう、市民のだれもが学びあえる生涯学習環境の充実を図り、学んだことを生かせる社会づくりを推進します。

基本目標6 安全・安心で質の高い教育を支える環境を整備します

未来を担う子どもたちが、安全・安心な環境で学び、生活できるよう教育施設の整備や学校の適正配置の取組等、教育環境の整備・充実を図ります。また、学校や園のニーズや今日的な課題を踏まえた教職員への研修体制の充実と、教職員があたりかきや愛をもって子どもと向きあうことができるよう、教職員の働き方改革を推進し、質の高い教育をサポートします。

資料 用語解説(50音順)

	用語	解説
あ 行	インクルーシブ教育	人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者となない者が共に学ぶ仕組み。
	運動あそび	発達段階に合わせて、楽しく体を動かすことによって運動能力を身につけ、コミュニケーション力や集中力を育む遊び。
	おうみ通学路アドバイザー	「通学における児童・生徒の交通安全対策アクションプラン」に基づき、県より委嘱を受け、通学路での見守りや危険箇所の点検、学校や関係機関との連絡調整等を実施するアドバイザー。
か 行	学校運営協議会	学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組み。
	学校適正配置	少子化が進む中で学校の小規模化を解消し、全ての市立学校において充実した教育が受けられるよう教育環境を整備するため、学校を適正に配置する取組。
	カリキュラム・マネジメント	子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえて各学校が設定する学校教育目標を実現するために、教科等の学習内容や様々な活動を選択・配列して計画し、それを実施・評価・改善していくこと。教科等の枠を超えて関連の高い内容や活動を工夫して配列したり、様々な人材等を活用して学習を充実したりすることが求められている。
	義務教育学校	一人の校長のもと、一つの教職員組織が置かれ、義務教育9年間の学校教育目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する学校。心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を基礎的なものから一貫して施すことを学校の目的としている。
	キャリア教育	一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。
	国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会	国民スポーツ大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、国民の健康増進と体力の向上を図るとともに、地方スポーツの推進と地方文化の発展に寄与することを目的に開催される日本最大のスポーツの祭典。また全国障害者スポーツ大会は、国スポ終了後にその開催都道府県で引き続き行われる障害者スポーツの全国的な祭典である。
	子ども安全リーダー	子どもを犯罪から守るため、警察署長から委嘱を受け、通学路等での安全パトロールや安全指導、見守り等の活動を行うボランティア団体。

さ 行	小中一貫教育校	小・中学校がめざす子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育をめざす学校。
	情報モラル教育	情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方や態度を身につけさせる教育。
	スクールガード	あらかじめ各小学校に登録した地域住民が、学校内を巡回したり通学路等の巡回パトロールや危険箇所の監視等を行ったりする学校安全ボランティア。
	スクールカウンセラー	学校で児童生徒や保護者の悩みを聴くとともに、教員のサポートをし、不登校を始めとする児童生徒たちの心のケア、事件・事故等の緊急対応における被害児童生徒の心のケアにあたる心の専門家。
	スクールソーシャルワーカー	社会福祉等の専門的な知識・技術を用いて、児童生徒の置かれた様々な環境に働きかけて支援を行う社会福祉士、精神保健福祉士等。
	全国学力・学習状況調査	小学校および義務教育学校6年生、中学3年生および義務教育学校9年生を対象に、全国的に児童・生徒の学力・学習状況を把握・分析し、検証することを目的に、文部科学省が実施する調査。
	総合型地域スポーツクラブ	いつでも、どこでも、だれとでも、いつまでも運動やスポーツに親しむことができる社会を実現するために、地域住民が主体となって、自ら運営・管理する多目的・多世代のスポーツクラブ。
	総合教育会議	「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」の施行に伴い、平成27年4月1日から、全ての地方公共団体に設置されることになった会議体。市長及び教育委員会(教育委員)で構成され、これにより、市長が教育行政に果たす責任や役割が明確になるとともに、市長が公の場で教育政策について議論することが可能となった。
た 行	多文化共生	国籍を問わず、様々な文化をもった異なる仲間を認めあい、互いのよさを生かしあいながら、より豊かな社会を共に創りあげていこうとすること。
	中央図書館	市内の図書館の中で中心的役割を持つ図書館。市民の高度で多様な知的要求に応え、全市的なサービスを提供するための要となる図書館。
	中学生チャレンジウィーク	県内全ての公立中学2年生に対して実施している職場体験週間。
な 行	長浜学	市民が主体的に地域について学びながら、「みんながつながり、みんなでつくる 長浜のまちづくり」を達成するため、研修講座を実施し、地域の人材の育成を図る。
	長浜子どものちかい	子どもが守ること、身につけること、実行すること等、行動様式や心構えを子どもの視点から約束する形で定めたもの。
	長浜市子育て憲章	親や大人の視点から子育てをするときの心得や子どもとの接し方、子どもに身に付けてほしいこと、子どものうちに育てたいこと等について、子育て

		て実践の拠り所として定めたもの。
	長浜市就学前教育カリキュラム	市内全園対象に、各学年における確実に経験させたい内容を示し、全園の向上を図るために作成した教育・保育計画。
	長浜学びの実験室	長浜バイオ大学内に開設される、市内小中学生が対象の理科実験講座。大学内の「長浜学びの実験室」において大学教員指導のもと、小中学校・義務教育学校ではできない高度な実験観察等の体験的学習講座を学校の授業の一環として実施するもの。
は 行	放課後児童クラブ	就労等により保護者が昼間家庭にいない小学校の児童を対象に、放課後や小学校の長期休業中等に、適切な遊びや生活の場を与え、児童の健全育成を図る事業。
ま 行	マイ体力アップ	子どもが、1日5分間程度、自ら進んでできる軽運動を継続的に行うこと。体力向上を図るだけでなく、運動習慣の確立と、生涯スポーツに親しむための基盤を築き、健康な生活を送ることができるようにすることを目的としている。
	めざす子ども像	子どもたちの豊かで安定した未来をめざす心の醸成という人間としての土台づくりに観点を絞り、こんな子どもに育てほしいという願いを込めて掲げられたもの。
や 行	やさしい日本語	普段使われている言葉を外国人にもわかるように配慮した、簡単な日本語。文章をわかりやすく書いたり、漢字にルビをふる、ゆっくりわかりやすい言葉で話す、相手の話をゆっくり聞く、丁寧語で話す等、子ども、高齢者、障害を持つ人等様々な人にとってもわかりやすい点で、様々な人に有効な伝達手段。
ら 行	レファレンス	図書館利用者の調べものの相談に応じること。学習・研究・調査のために必要な資料や情報を司書が提供する等して、利用者と資料を結びつけるサービス。
A B C	エーエルティー ALT	Assistant of Language Teacher の略。日本人教師を補佐し、生きた英語を子どもたちに伝える英語を母語とする外国人の英語指導者。
	セフアール CEFR	外国語の学習者が、どのくらいの能力を習得しているのかということを示す際に用いられるガイドライン。ヨーロッパを中心に広く使われてきた国際標準規格。
	アイシーティー ICT (情報通信技術)	Information and Communication Technology の略。コンピュータやインターネットに関連する情報通信技術に、コミュニケーションの概念を加えた言葉。
	ジェーティーイー JTE	Japanese Teacher of English の略。日本人の英語指導者。
	ピーディーシーイー PDCAサイクル	事業活動において管理業務を円滑に進める手法の一つで、Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)の4段階を繰り返すことに

		よって、業務を継続的に改善する。
	エスディーズ SDGs	Sustainable Development Goals の略。2015 年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標であり、持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。
	エスエヌエス SNS	Social Networking Service の略。人と人とのつながりを支援するインターネット上のサービス。自分の履歴を載せ、共通の趣味等を持つほかの会員たちとメッセージのやり取りをする「友達の輪」のネットワーク型の組織。